

令和元年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

令和元年 11 月

福島県

目 次

	頁
I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成	2
II 調査結果の解説	
1. 復興等に関する情報発信について.....	5
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報.....	5
(2) 復興状況や新しい取り組みに関する情報の入手先.....	6
(3) 県の広報活動の満足度.....	7
(4) 県外に発信すべき内容.....	9
2. 安全で安心な県づくりについて.....	10
(1) 安全・安心の現状.....	10
3. 県総合計画について.....	12
(1) 福島県の現状.....	12
4. 福島イノベーション・コースト構想について.....	17
(1) 福島イノベーション・コースト構想の認知状況.....	17
(2) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組み.....	18
(3) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組み.....	19
5. 土地利用について.....	20
(1) 土地利用の問題点.....	20
(2) 土地利用にあたり重点をおくべきこと.....	22
(3) 重要と考える土地対策.....	23
6. チャレンジふくしま県民運動について.....	24
(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況.....	24
(2) 心身の健康づくりに対する実践状況.....	25
(3) 心身の健康づくりが実践できない理由.....	26
7. 生涯学習について.....	27
(1) 生涯学習の実施状況.....	27
(2) 生涯学習の目的・必要性.....	28
(3) 生涯学習を行う上で増えればよいと思う機会.....	30
(4) 生涯学習を行う上での課題.....	31

	頁
8. 生物多様性について.....	32
(1) 言葉の認知状況.....	32
(2) 震災前と比較した自然環境の現状.....	33
(3) 生物多様性の保全や生態系サービスを得るために重要なこと.....	35
(4) 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行いたいこと.....	36
9. ユニバーサルデザインについて.....	37
(1) 言葉の認知状況.....	37
10. 農林水産業について.....	38
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと.....	38
(2) 農山漁村の役割として期待すること.....	39
11. 地域社会の安全・安心（治安）について.....	40
(1) 現在の治安状況.....	40
(2) 治安状況が良いと思う理由.....	41
(3) 治安状況が悪いと思う理由.....	42
(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段.....	43
(5) 犯罪に関して知りたい情報.....	44
(6) 警察に強化してほしい活動.....	45
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪.....	47
(8) 身近に感じる不安.....	49

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100％にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100％を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100％が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2. 調査実施概要

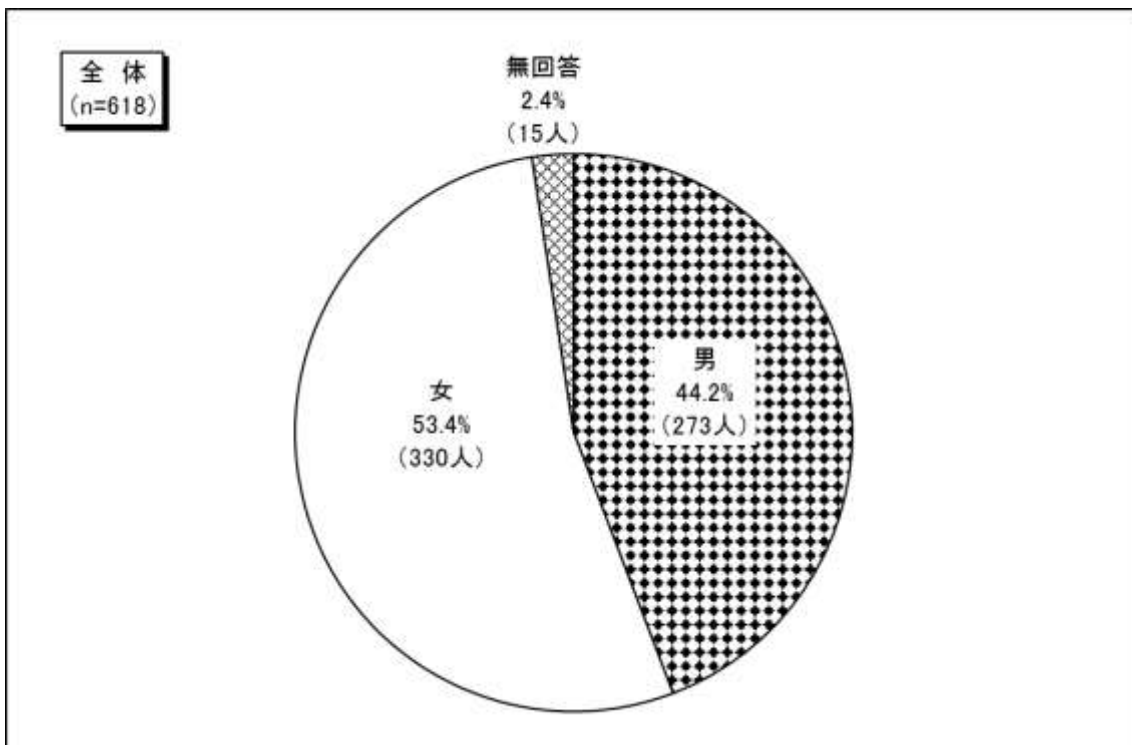
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（28市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 1,300（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 基準日 | 令和元年8月1日
（抽出にあたっては上記年月日現在の満年齢を基準とした） |
| (6) 調査方法 | 郵送調査（自記式アンケート） |
| (7) 調査期間 | 令和元年7月24日～8月13日 |
| (8) 回収結果 | 有効回収数618（有効回収率47.5%） |

3. 調査項目

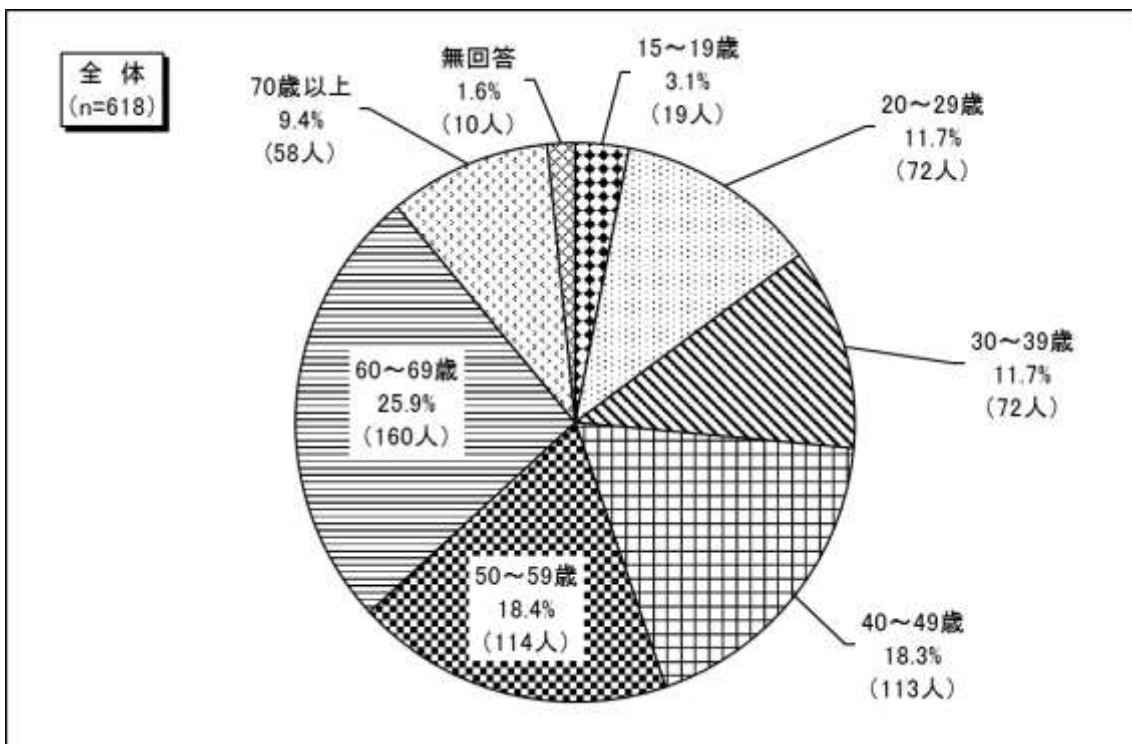
- (1) 『復興等に関する情報発信』について
- (2) 『安全で安心な県づくり』について
- (3) 『県総合計画』について
- (4) 『福島イノベーション・コースト構想』について
- (5) 『土地利用』について
- (6) 『チャレンジふくしま県民運動』について
- (7) 『生涯学習』について
- (8) 『生物多様性』について
- (9) 『ユニバーサルデザイン』について
- (10) 『農林水産業』について
- (11) 『地域社会の安全・安心（治安）』について

4. 回答者の構成

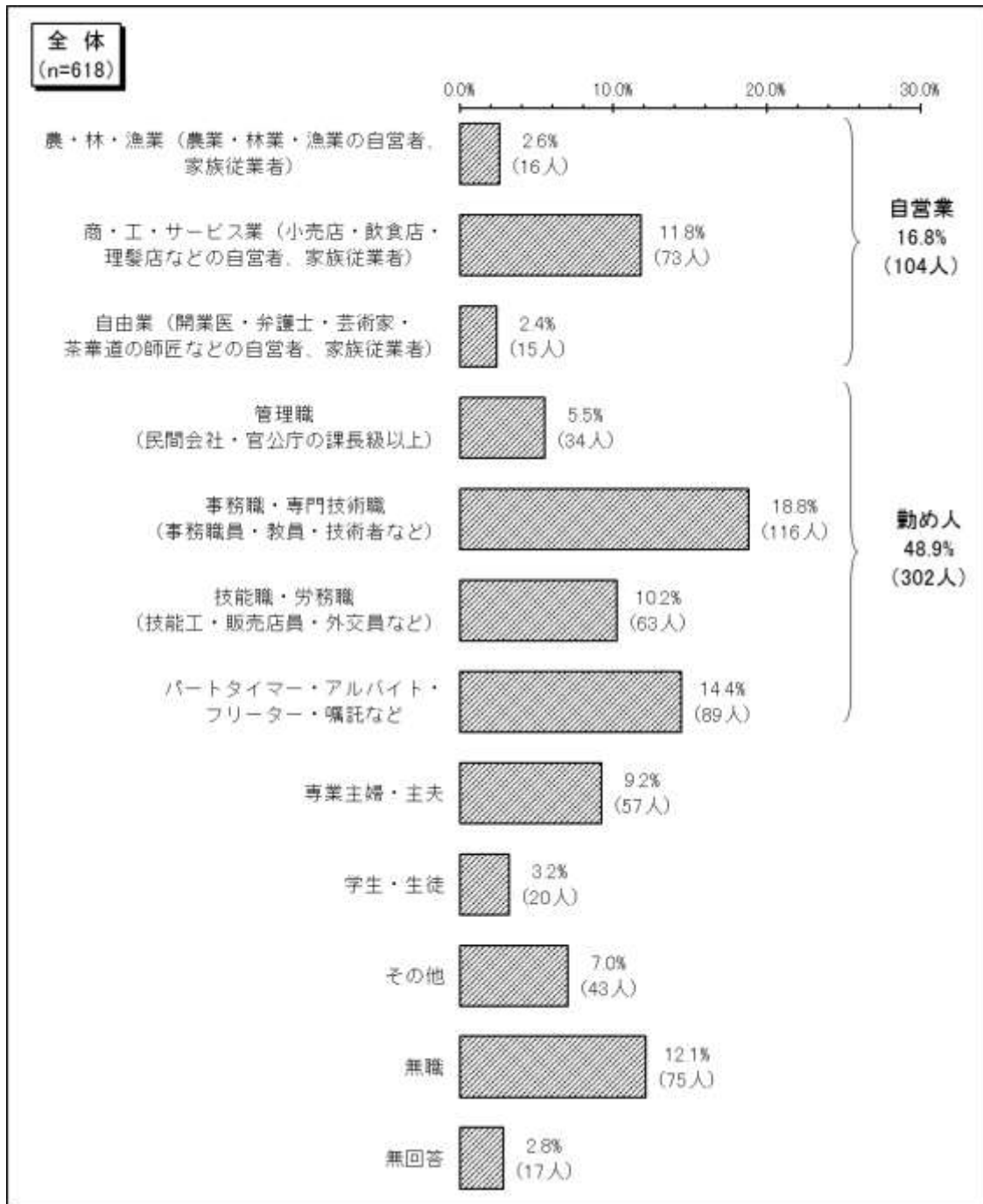
(1) 性別



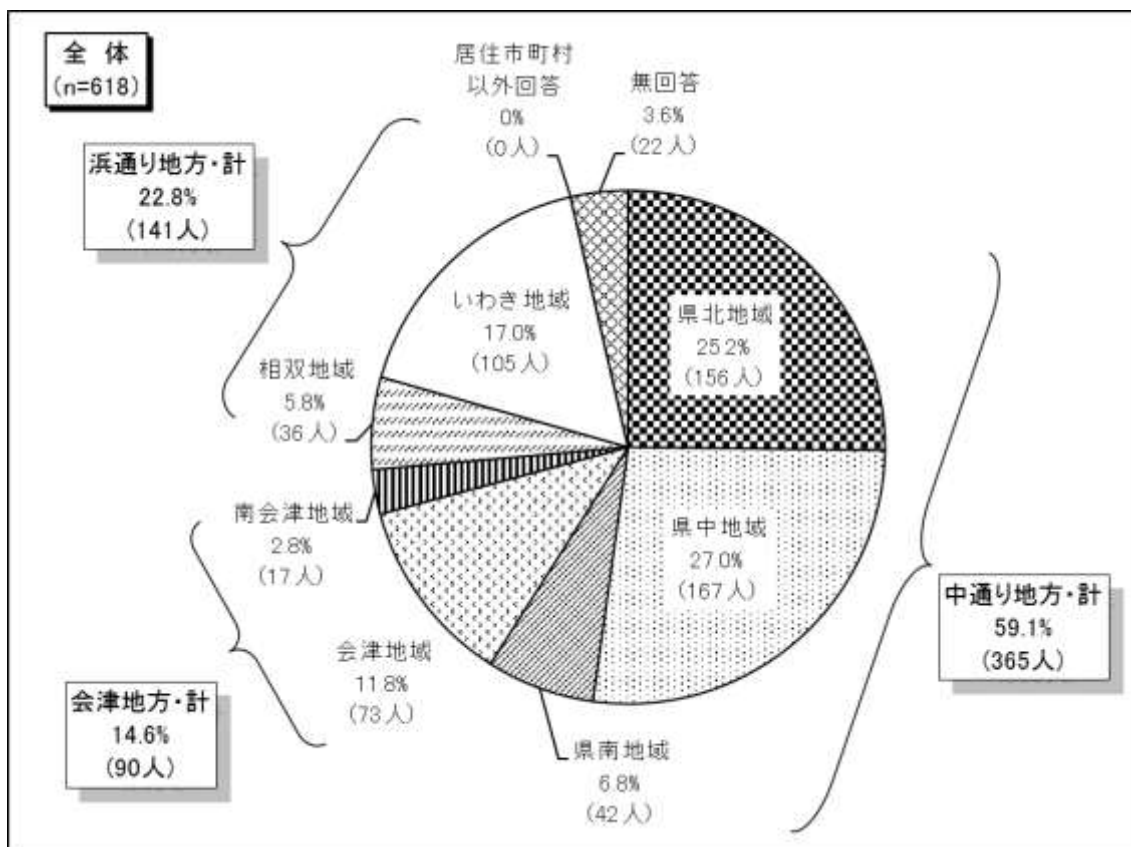
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中 通 り 地 方	県北地域	福島市	103	16.7
		二本松市	17	2.8
		伊達市	15	2.4
		本宮市	12	1.9
		桑折町	8	1.3
		川俣町	1	0.2
		郡山市	105	17.0
	県中地域	須賀川市	24	3.9
		田村市	13	2.1
		天栄村	9	1.5
		平田町	7	1.1
		小野町	9	1.5
	県南地域	白河市	14	2.3
		泉崎村	8	1.3
矢吹町		10	1.6	
		塙町	10	1.6

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
会 津 地 方	会津地域	会津若松市	36	5.8
		喜多方市	15	2.4
		西会津町	4	0.6
		猪苗代町	9	1.5
		三島町	9	1.5
		A 南会津	17	2.8
	浜通り地方	相馬市	10	1.6
相双地域	南相馬市	13	2.1	
	広野町	3	0.5	
	川内村	4	0.6	
	浪江町	6	1.0	
	B いわき市	105	17.0	
	居住市町村以外回答	0	0.0	
	居住市町村別無回答	22	3.6	
	全 体	618	100.0	

A 南会津地域

B いわき地域

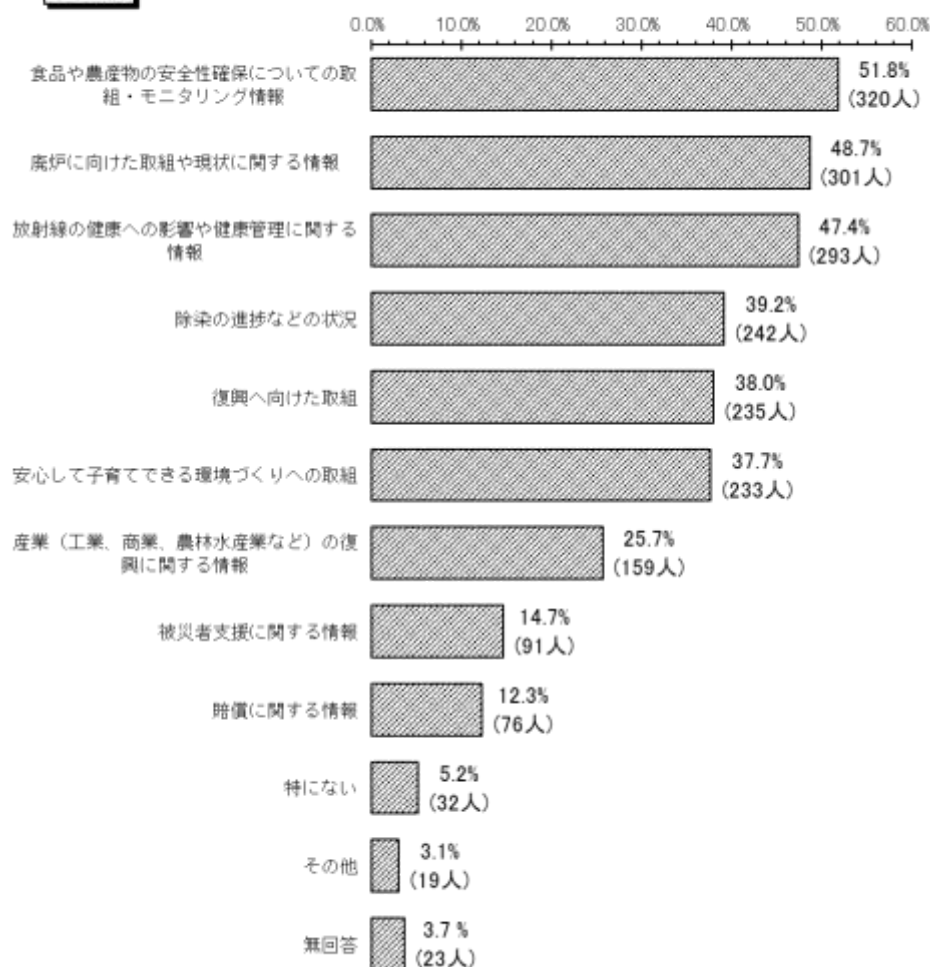
Ⅱ 調査結果の解説

1. 復興等に関する情報発信について

(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)

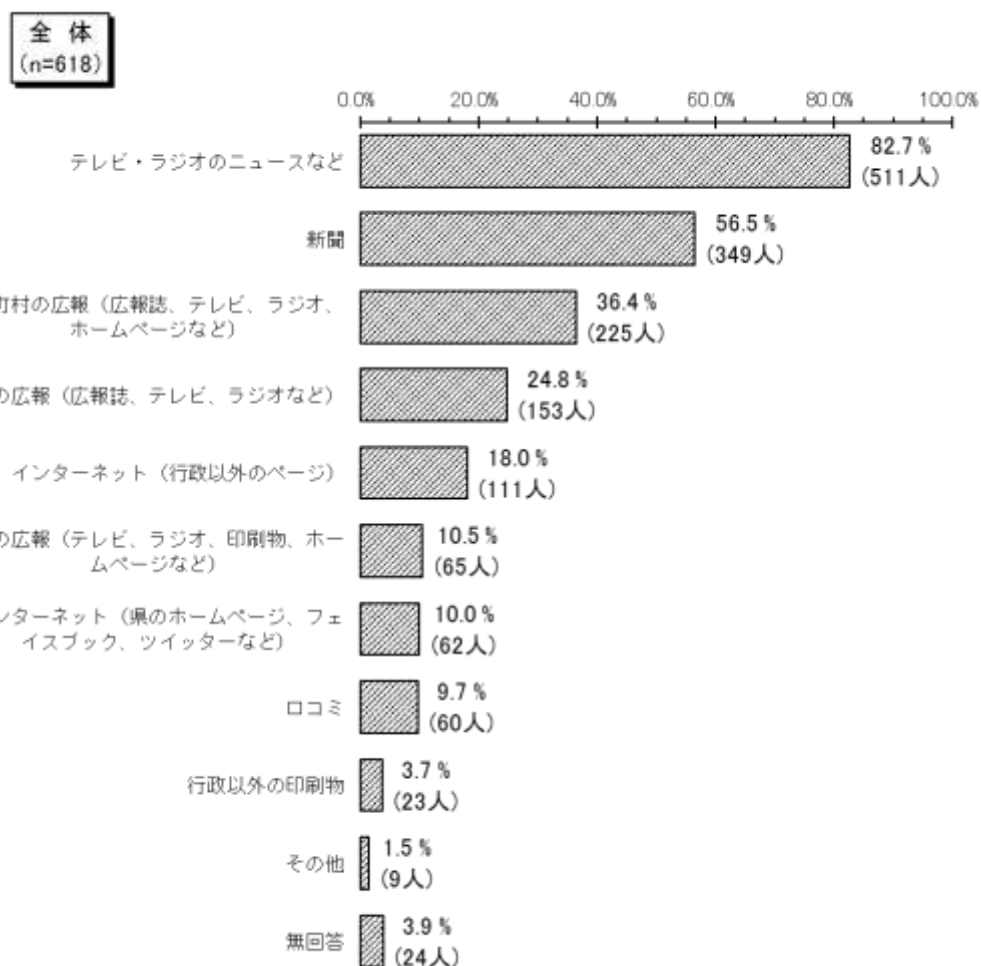


震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取組・モニタリング情報」(51.8%)が最も多く約5割、次いで、「廃炉に向けた取組や現状に関する情報」(48.7%)と「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(47.4%)が4割台となっている。以下、「除染の進捗などの状況」(39.2%)、「復興へ向けた取組」(38.0%)と「安心して子育てできる環境づくりへの取組」(37.7%)が3割台、「産業(工業、商業、農林水産業など)の復興に関する情報」(25.7%)が2割台で続いている。

(2) 復興状況や新しい取り組みに関する情報の入手先

問2 本県の復興の状況や新しい取組に関する情報については主に何で入手していますか。

あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

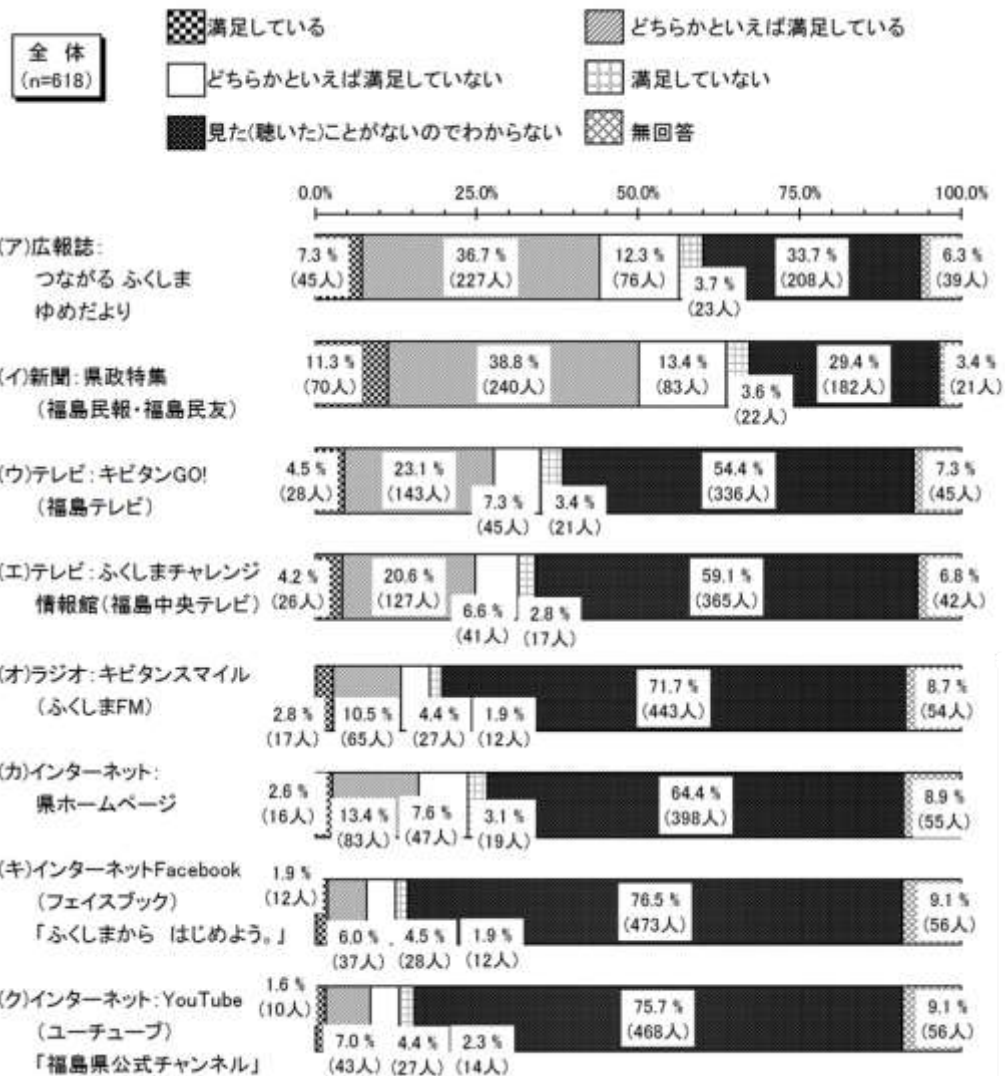


復興の状況や新しい取り組みに関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(82.7%)が最も多く、約8割となっている。以下、「新聞」(56.5%)が5割台、「市町村の広報(広報誌、テレビ、ラジオ、ホームページなど)」(36.4%)が3割台、「県の広報(広報誌、テレビ、ラジオなど)」(24.8%)が2割台、「インターネット(行政以外のページ)」(18.0%)、「国の広報(テレビ、ラジオ、印刷物、ホームページなど)」(10.5%)と「インターネット(県のホームページ、フェイスブック、ツイッターなど)」(10.0%)が1割台となっている。

(3) 県の広報活動の満足度

問3 あなたは、県の広報活動に満足していますか。

(ア)～(ク)について、それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



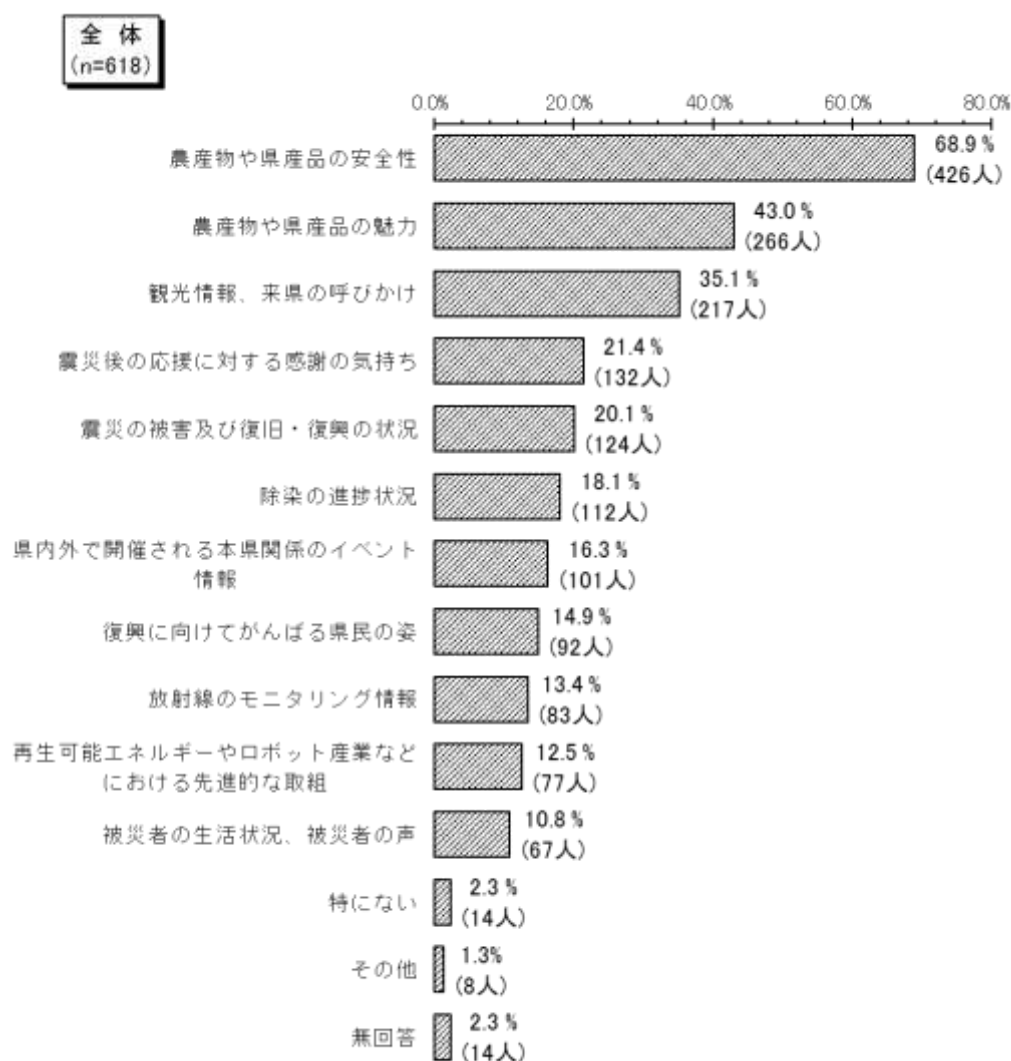
県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（50.2%）が最も多く、約5割となっている。以下、〈広報誌『つながる 福島 ゆめだより』〉（44.0%）が4割台、〈テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（27.7%）、〈テレビ『ふくしまチャレンジ情報館（福島中央テレビ：毎週土曜日 20:54～20:57）』〉（24.8%）が2割台、〈インターネット『県ホームページ』〉（16.0%）、〈ラジオ『キビタンスマイル（ふくしまFM：毎週月～金曜日 17:30～17:35）』〉（13.3%）が1割台となっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（17.0%）が最も多く、以下、〈広報誌『つながる 福島 ゆめだより』〉（16.0%）、〈テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（10.7%）、〈インターネット：『県ホームページ』〉（10.7%）が1割台となっている。

。

(4) 県外に発信すべき内容

問4 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

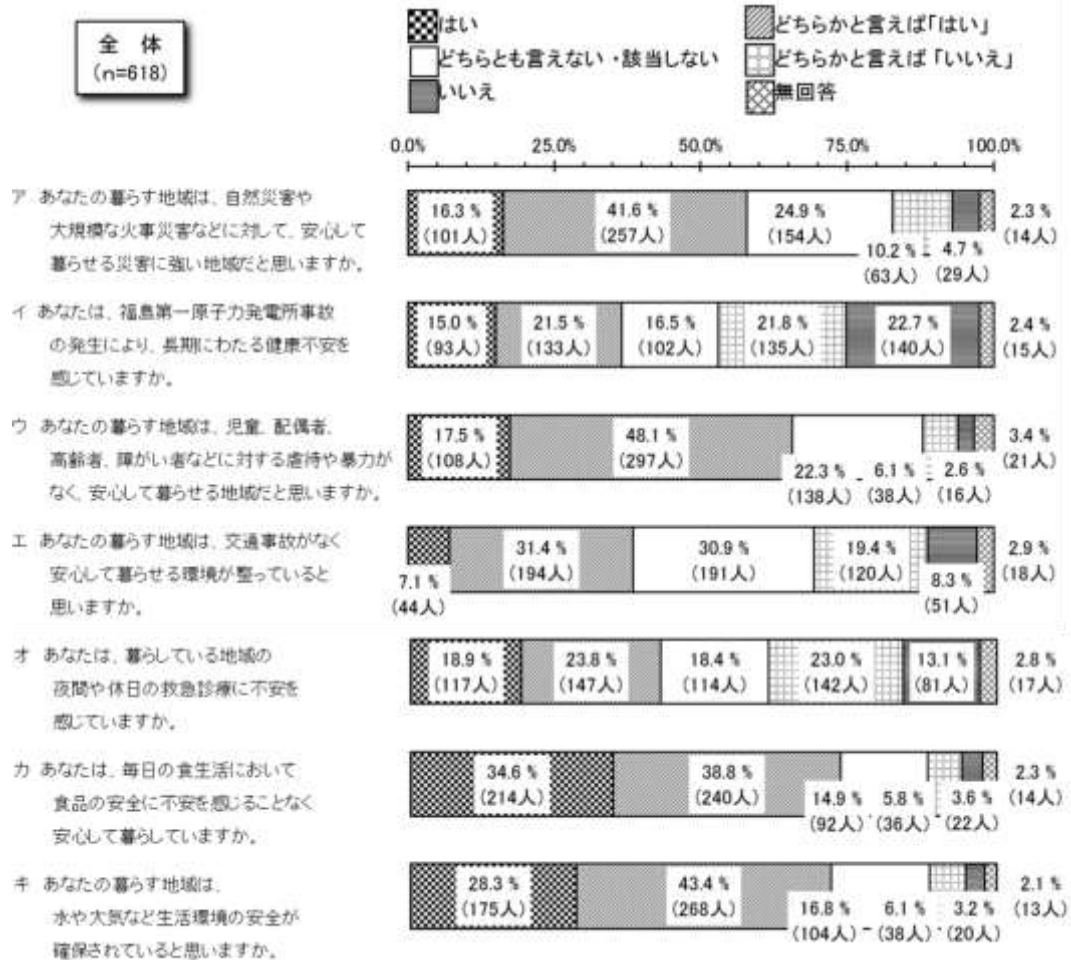


福島県の現状について、県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性」(68.9%)が最も多く、約7割となっている。次いで、「農産物や県産品の魅力」(43.0%)が4割台、「観光情報、来県の呼びかけ」(35.1%)が3割台となっている。以下、「震災後の応援に対する感謝の気持ち」(21.4%)、「震災の被害及び復旧・復興の状況」(20.1%)が2割台、「除染の進捗状況」(18.1%)、「県内外で開催される本県関係のイベント情報」(16.3%)、「復興に向けてがんばる県民の姿」(14.9%)、「放射線のモニタリング情報」(13.4%)、「再生可能エネルギーやロボット産業などにおける先進的な取組」(12.5%)、「被災者の生活状況、被災者の声」(10.8%)が1割台で続いている。

2. 安全で安心な県づくりについて

(1) 安全・安心の現状

問5 次にあげたア～キの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



「はい」と回答した人の割合をみると、〈カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(34.6%)が最も高く、次いで、〈キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(28.3%)、〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(18.9%)となっている。

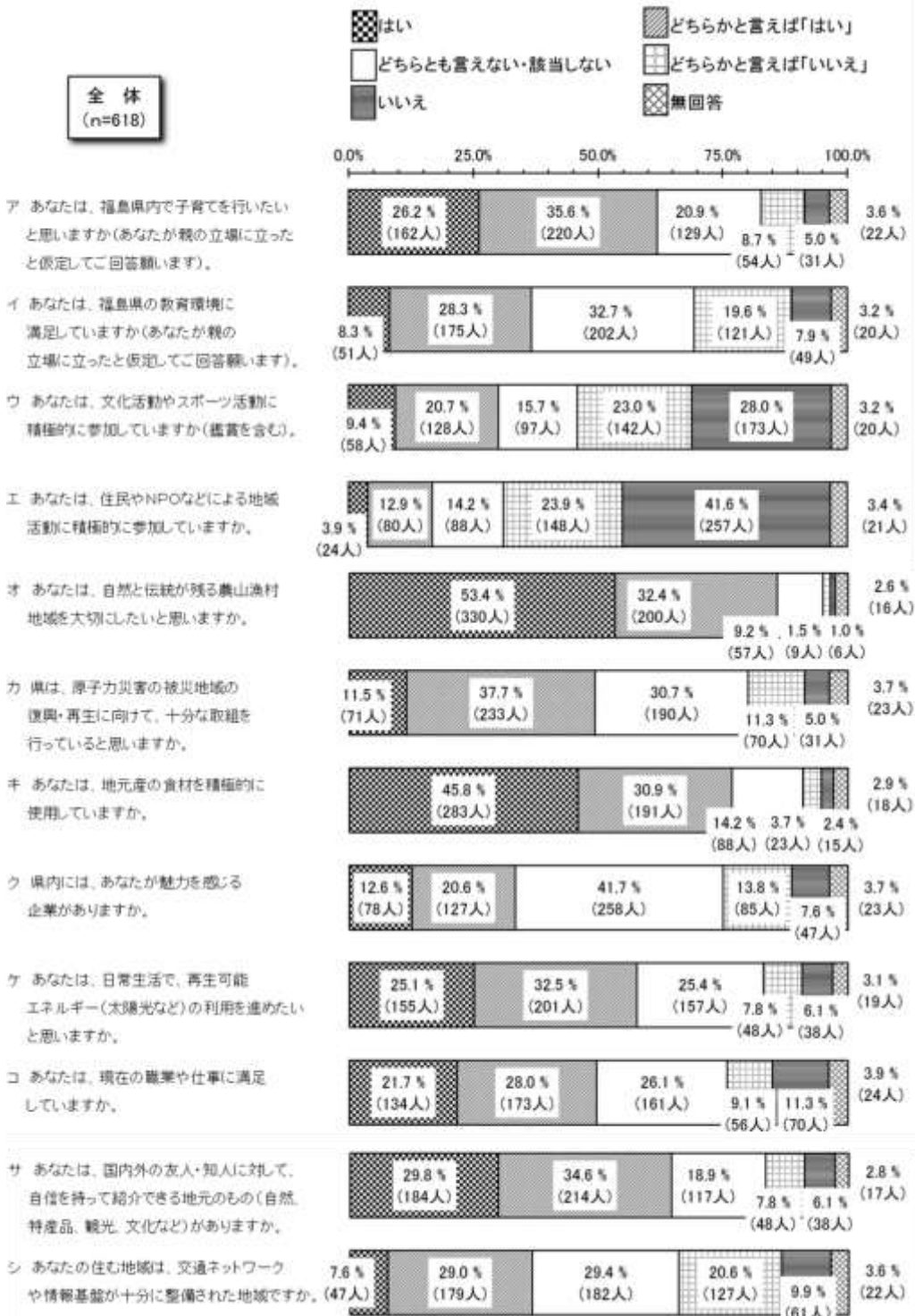
「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈カ あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(73.5%)が最も高く、次いで、〈キ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(71.7%)が7割台となっている。以下、〈ウ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思いますか。〉(65.5%)が6割台、〈ア あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思いますか。〉(57.9%)が5割台、〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(42.7%)が4割台、〈エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(38.5%)と〈イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(36.6%)が3割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈イ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(44.5%)が最も高く4割台、以下、〈オ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(36.1%)が3割台、〈エ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思いますか。〉(27.7%)が2割台となっている。

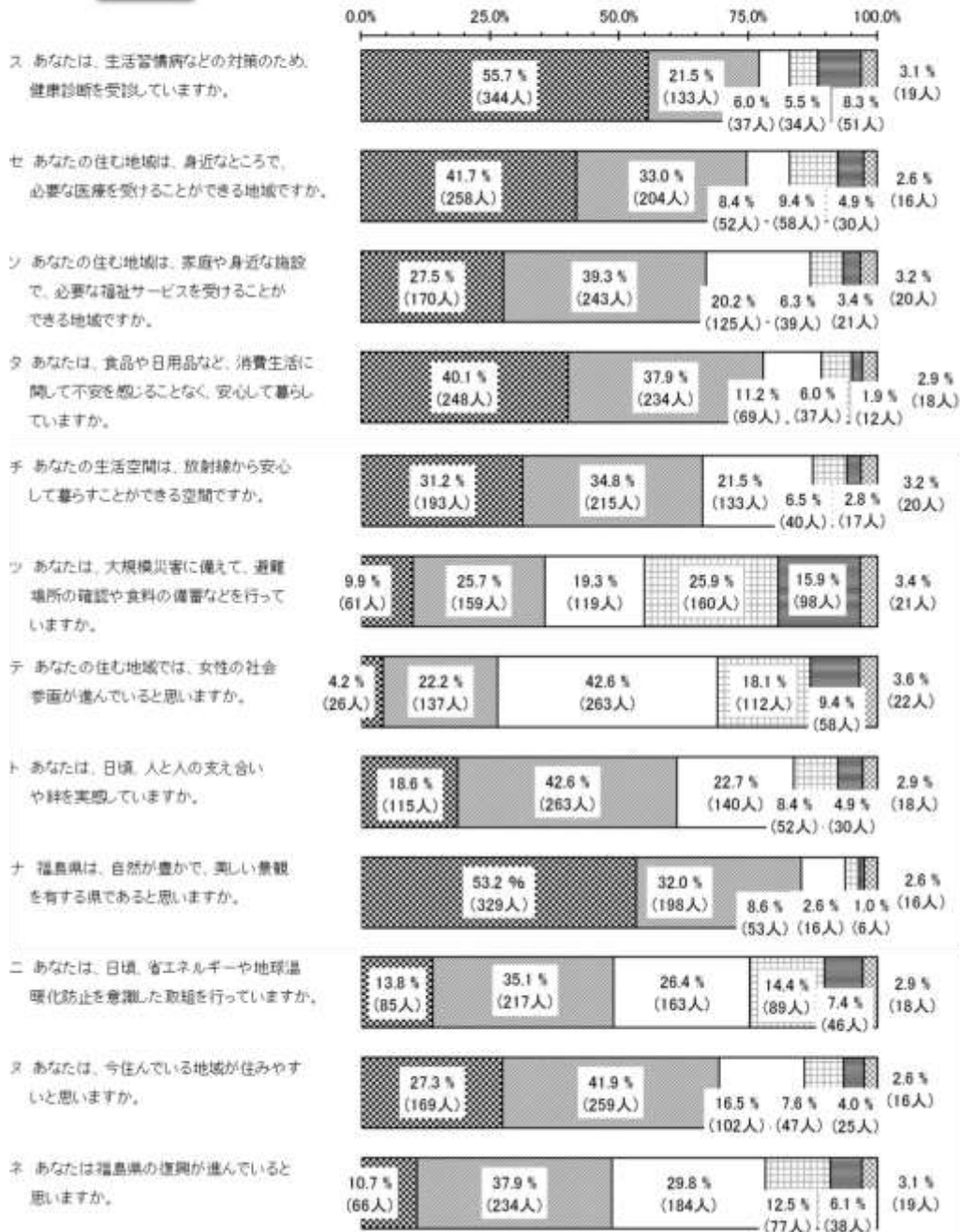
3. 県総合計画について

(1) 福島県の現状

問6 次にあげたア～ネの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



全体
(n=618)



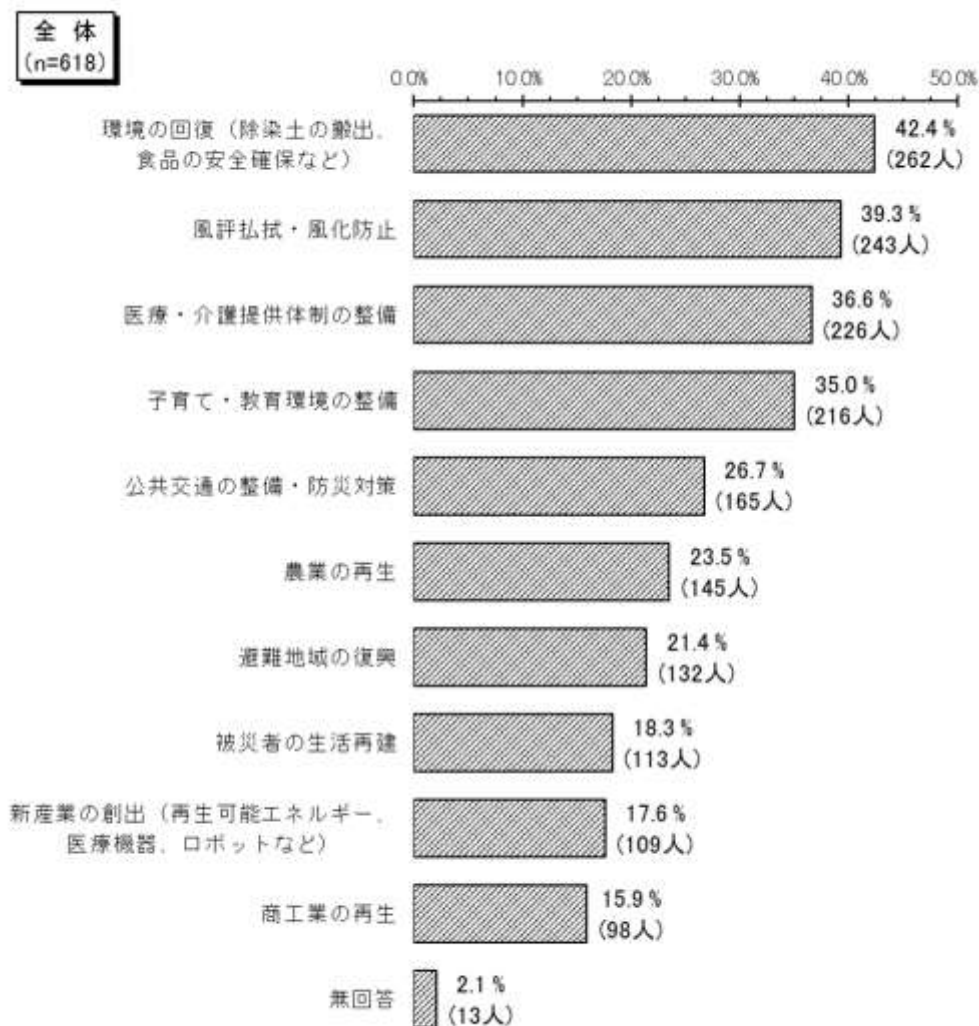
「はい」と回答した人の割合は、〈ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(55.7%)が最も高く、次いで、〈オ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(53.4%)と〈ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(53.2%)が5割台で続いている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈オ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いますか。〉(85.8%)が最も高く、次いで、〈ナ 福島県は、自然が豊かで、美しい景観を有する県であると思いますか。〉(85.3%)が8割台となっている。以下、〈タ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(78.0%)、〈ス あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(77.2%)、〈キ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(76.7%)、〈セ あなたの住む地域は、身近なところで、必要な医療を受けることができる地域ですか。〉(74.8%)が7割台、〈ヌ あなたは、今住んでいる地域が住みやすいと思いますか。〉(69.3%)、〈ソ あなたの住む地域は、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができる地域ですか。〉(66.8%)、〈チ あなたの生活空間は、放射線から安心して暮らすことができる空間ですか。〉(66.0%)、〈サ あなたは、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉(64.4%)、〈ア あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思いますか(あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います)。〉(61.8%)、〈ト あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(61.2%)が6割台となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈エ あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(65.5%)が最も高く、6割台となっている。以下、〈ウ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(51.0%)が5割台、〈ツ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(41.7%)が4割台で続いている。

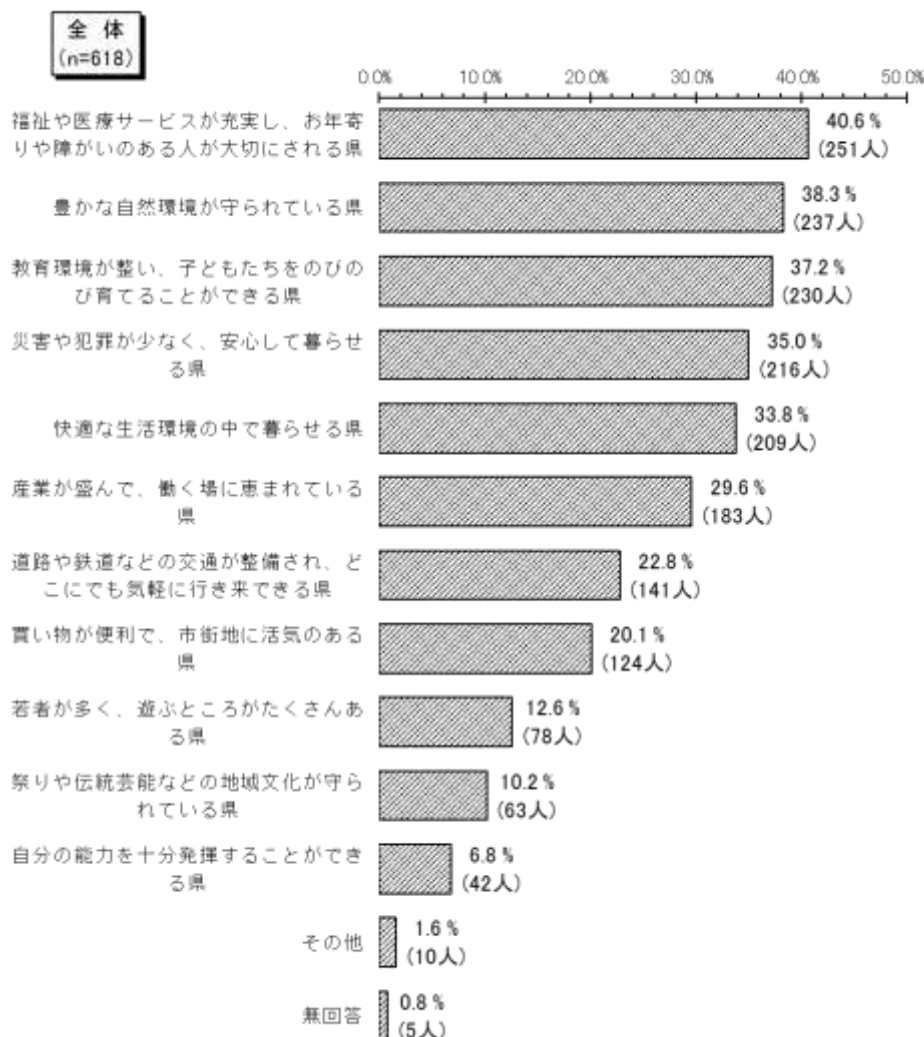
問6 ノ 福島県の復興に必要な取組は何だと思いますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



福島県の復興に必要な取組は、「環境の回復 (除染土の搬出、食品の安全確保など)」(42.4%) が4割台で最も多く、次いで、「風評払拭・風化防止」(39.3%)、「医療・介護提供体制の整備」(36.6%)、「子育て・教育環境の整備」(35.0%) が3割台となっている。以下、「公共交通の整備・防災対策」(26.7%)、「農業の再生」(23.5%)、「避難地域の復興」(21.4%) が2割台が続いている。

問6 ハ これから福島県がどのような県になってほしいですか。
あなたの考えに近いもの3つまで○をつけてください。

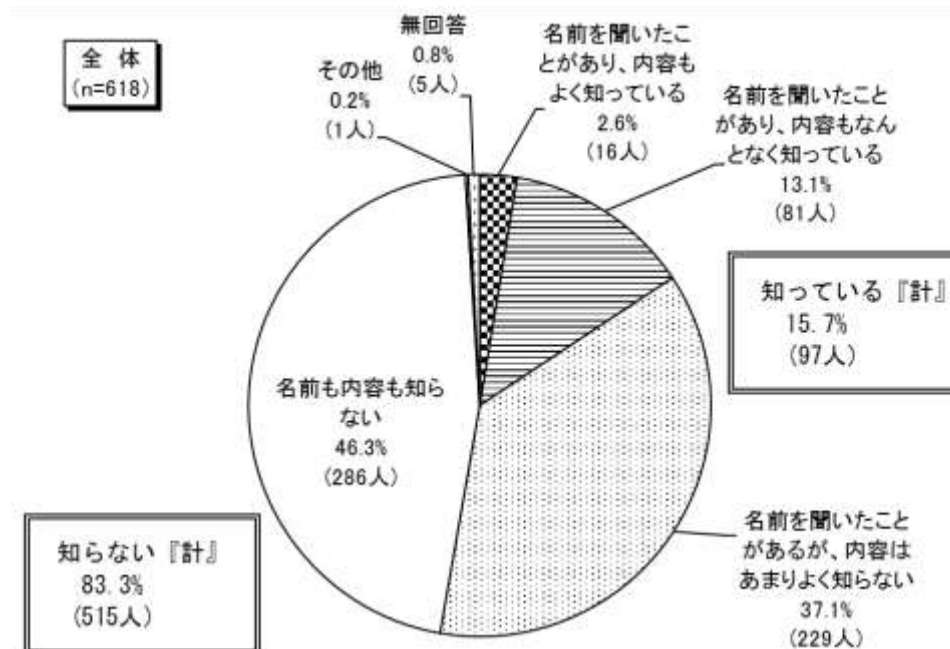


「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいのある人が大切にされる県」(40.6%)が最も多く4割台となっている。次いで、「豊かな自然環境が守られている県」(38.3%)、「教育環境が整い、子どもたちをのびのび育てることができる県」(37.2%)、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる県」(35.0%)、「快適な生活環境の中で暮らせる県」(33.8%)が3割台となっている。以下、「産業が盛んで、働く場に恵まれている県」(29.6%)、「道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県」(22.8%)、「買い物で便利で、市街地に活気のある県」(20.1%)が2割台で続いている。

4. 福島イノベーション・コースト構想について

(1) 福島イノベーション・コースト構想の認知状況

問7 福島イノベーション・コースト構想を知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

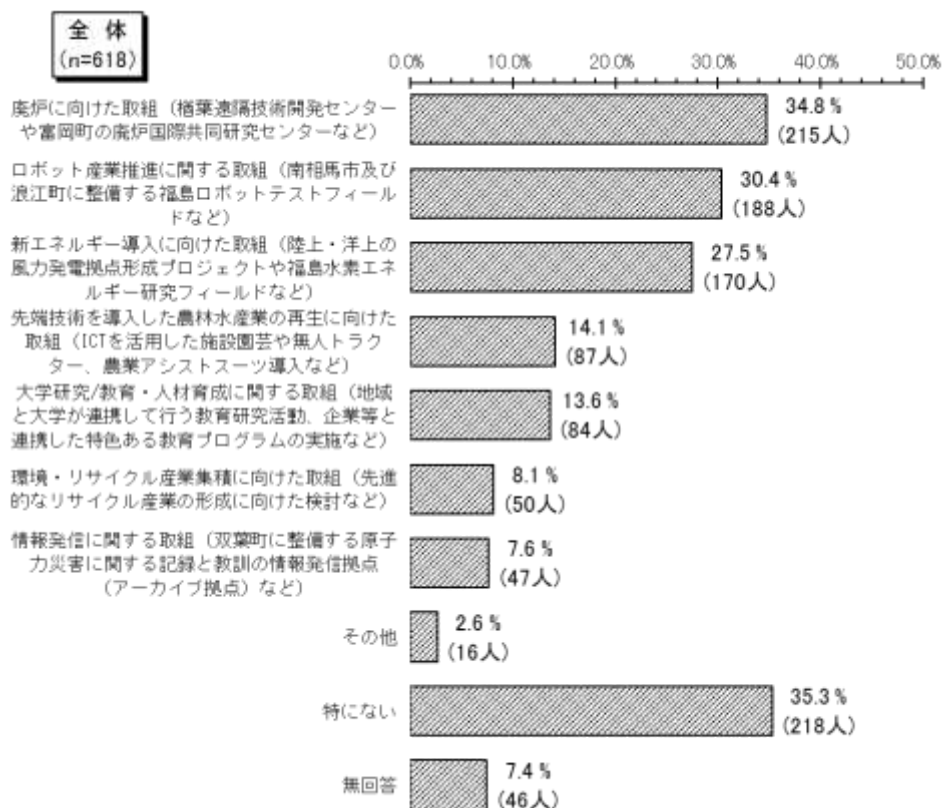


福島イノベーション・コースト構想の認知状況については、「名前も内容も知らない」(46.3%)、「名前を聞いたことがあるが、内容はあまりよく知らない」(37.1%)で『知らない』計が83.3%となっている。「名前を聞いたことがあり、内容もなんとなく知っている」(13.1%)、「名前を聞いたことがあり、内容もよく知っている」(2.6%)で『知っている』計が15.7%となっている。

(2) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組み

問8 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取組を知っていますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

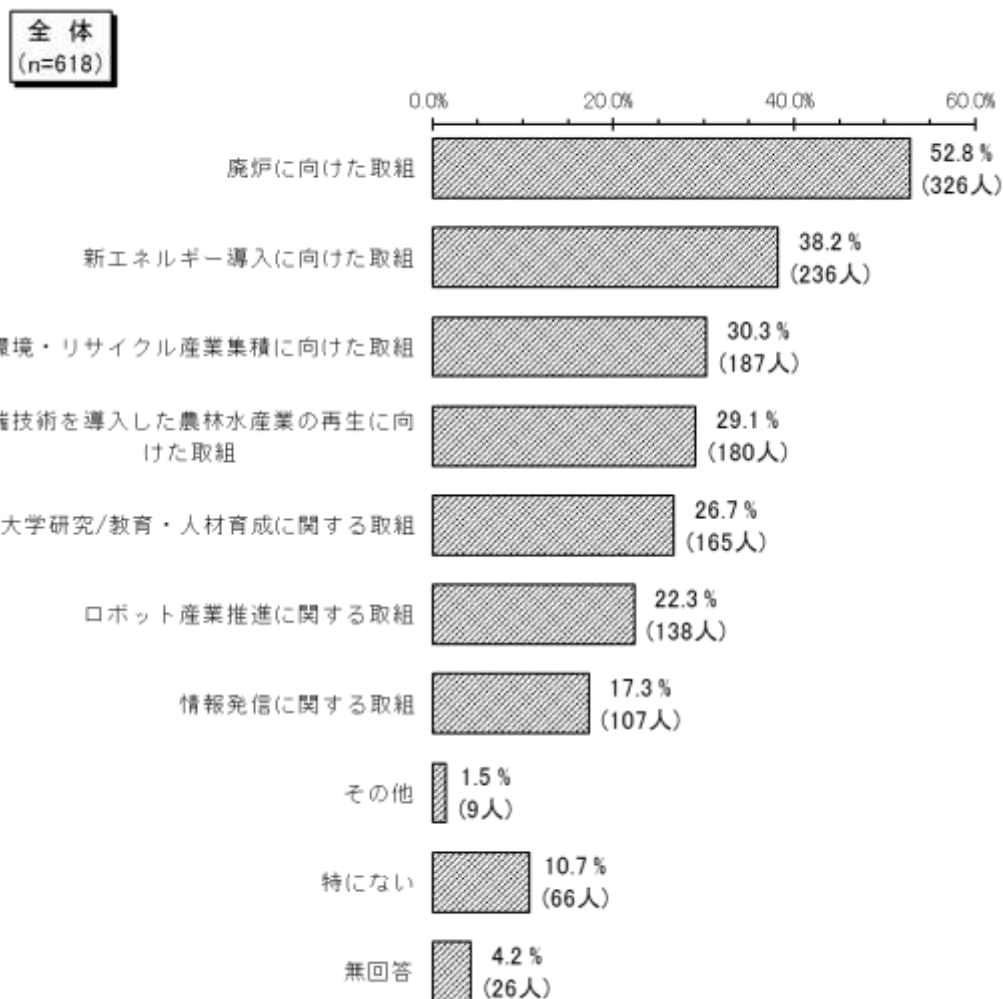


福島イノベーション・コースト構想について知っている取り組みは「廃炉に向けた取組 (楢葉遠隔技術開発センターや富岡町の廃炉国際共同研究センターなど)」(34.8%) が最も多く、次いで、「ロボット産業推進に関する取組 (南相馬市及び浪江町に整備する福島ロボットテストフィールドなど)」(30.4%) が3割台となっている。以下、「新エネルギー導入に向けた取組 (陸上・洋上の風力発電拠点形成プロジェクトや福島水素エネルギー研究フィールドなど)」(27.5%) が2割台、「先端技術を導入した農林水産業の再生に向けた取組 (ICT を活用した施設園芸や無人トラクター、農業アシストスーツ導入など)」(14.1%) と「大学研究/教育・人材育成に関する取組 (地域と大学が連携して行う教育研究活動、企業等と連携した特色ある教育プログラムの実施など)」(13.6%) が1割台で続いている。

(3) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組み

問9 今後、福島イノベーション・コースト構想を着実に推進し、県内全域の復興・創生にもつなげていくために、県はどのような取り組みを強化していけばよいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



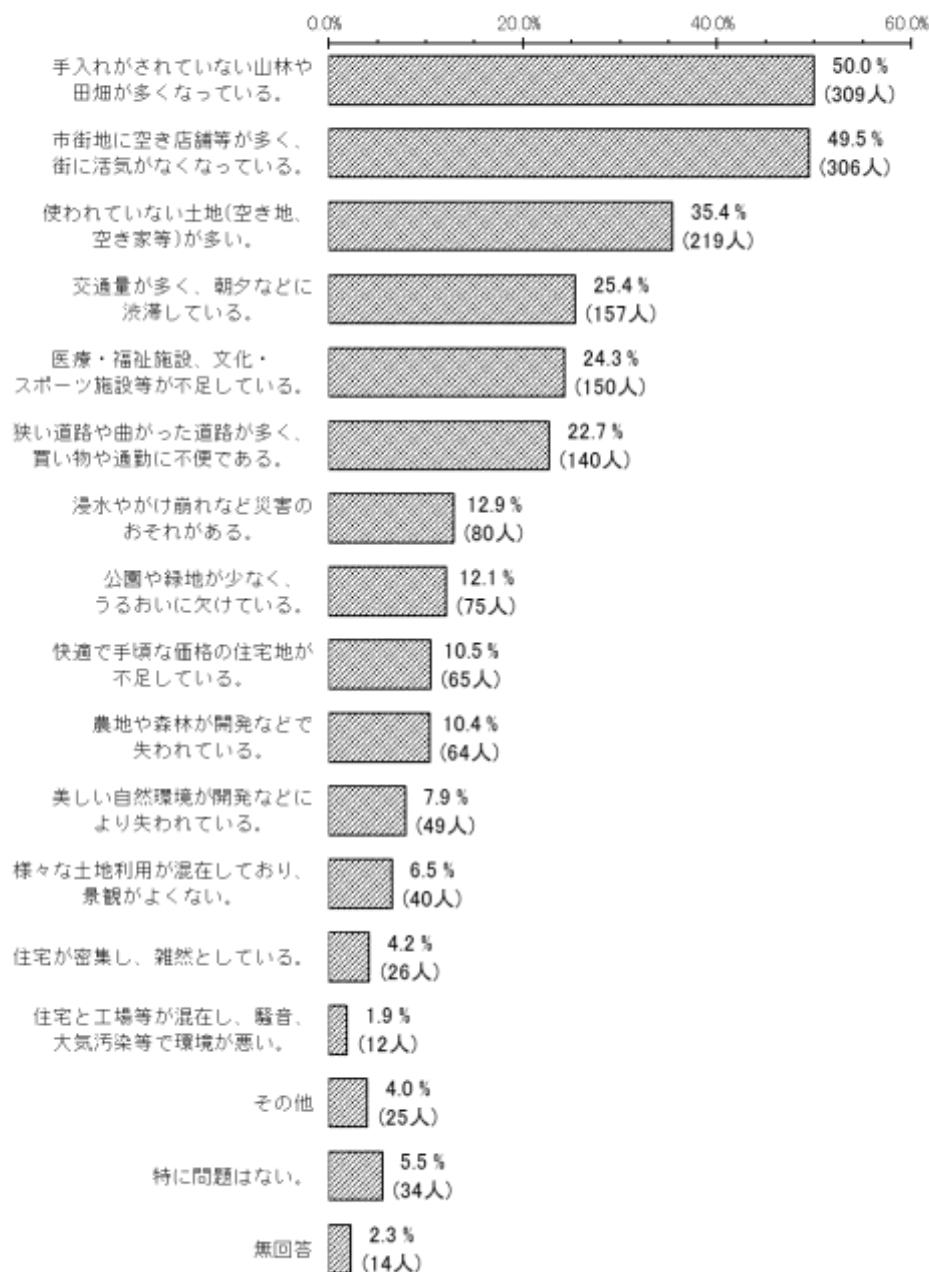
福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取り組みについては、「廃炉に向けた取組」(52.8%)が最も多く、約5割となっている。以下、「新エネルギー導入に向けた取組」(38.2%)、「環境・リサイクル産業集積に向けた取組」(30.3%)が3割台、「先端技術を導入した農林水産業の再生に向けた取組」(29.1%)、「大学研究/教育・人材育成に関する取組」(26.7%)と「ロボット産業推進に関する取組」(22.3%)が2割台となっている。

5. 土地利用について

(1) 土地利用の問題点

問10 あなたの住んでいる地域では、土地利用についてどのようなことが問題となっていますか。あてはまるもの4つまで○をつけてください。

全体
(n=618)

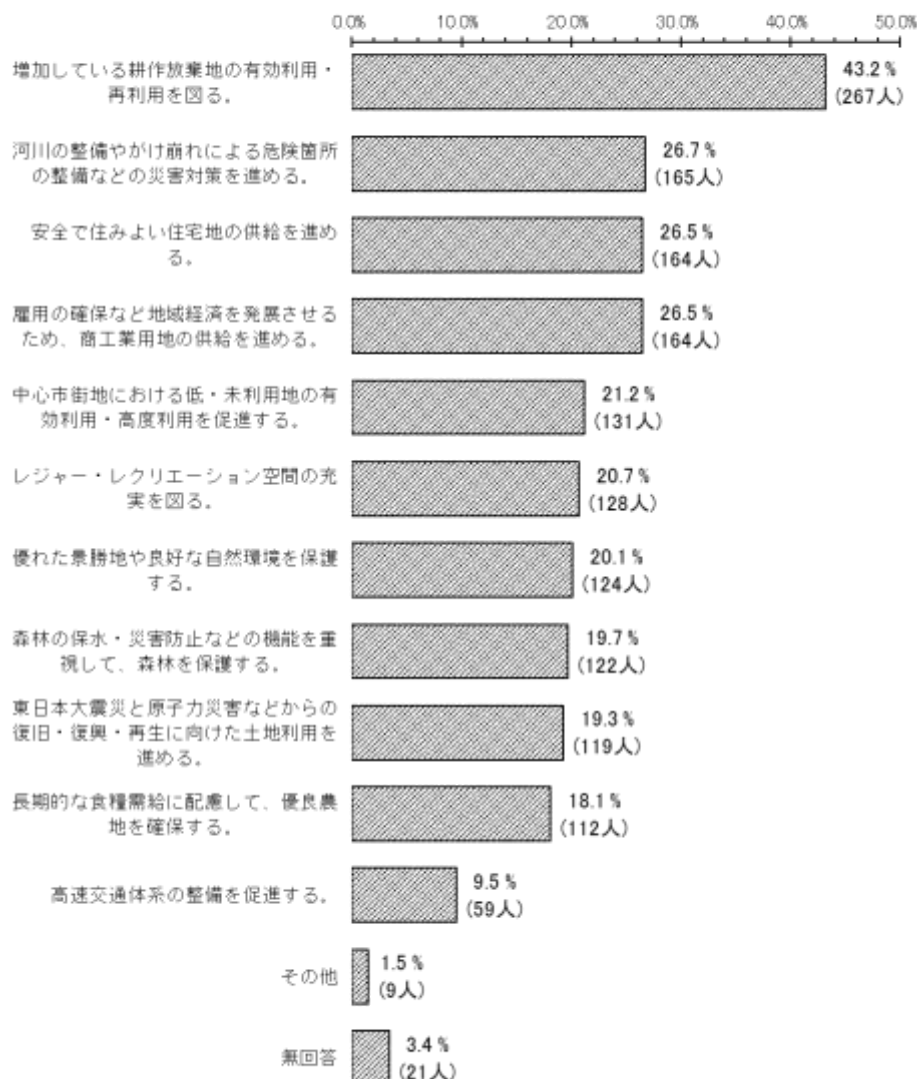


土地利用について問題となっていることは、「手入れがされていない山林や田畑が多くなっている。」(50.0%) が最も多く、次いで、「市街地に空き店舗等が多く、街に活気がなくなっている。」(49.5%) が約5割となっている。以下、「使われていない土地(空き地、空き家等)が多い。」(35.4%) が3割台、「交通量が多く、朝夕などに渋滞している。」(25.4%)、「医療・福祉施設、文化・スポーツ施設等が不足している。」(24.3%) と「狭い道路や曲がった道路が多く、買い物や通勤に不便である。」(22.7%) が2割台で続いている。

(2) 土地利用にあたり重点をおくべきこと

問 11 あなたは、今後の土地利用を考えるにあたって、特にどのような利用に重点をおくべきと考えますか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。

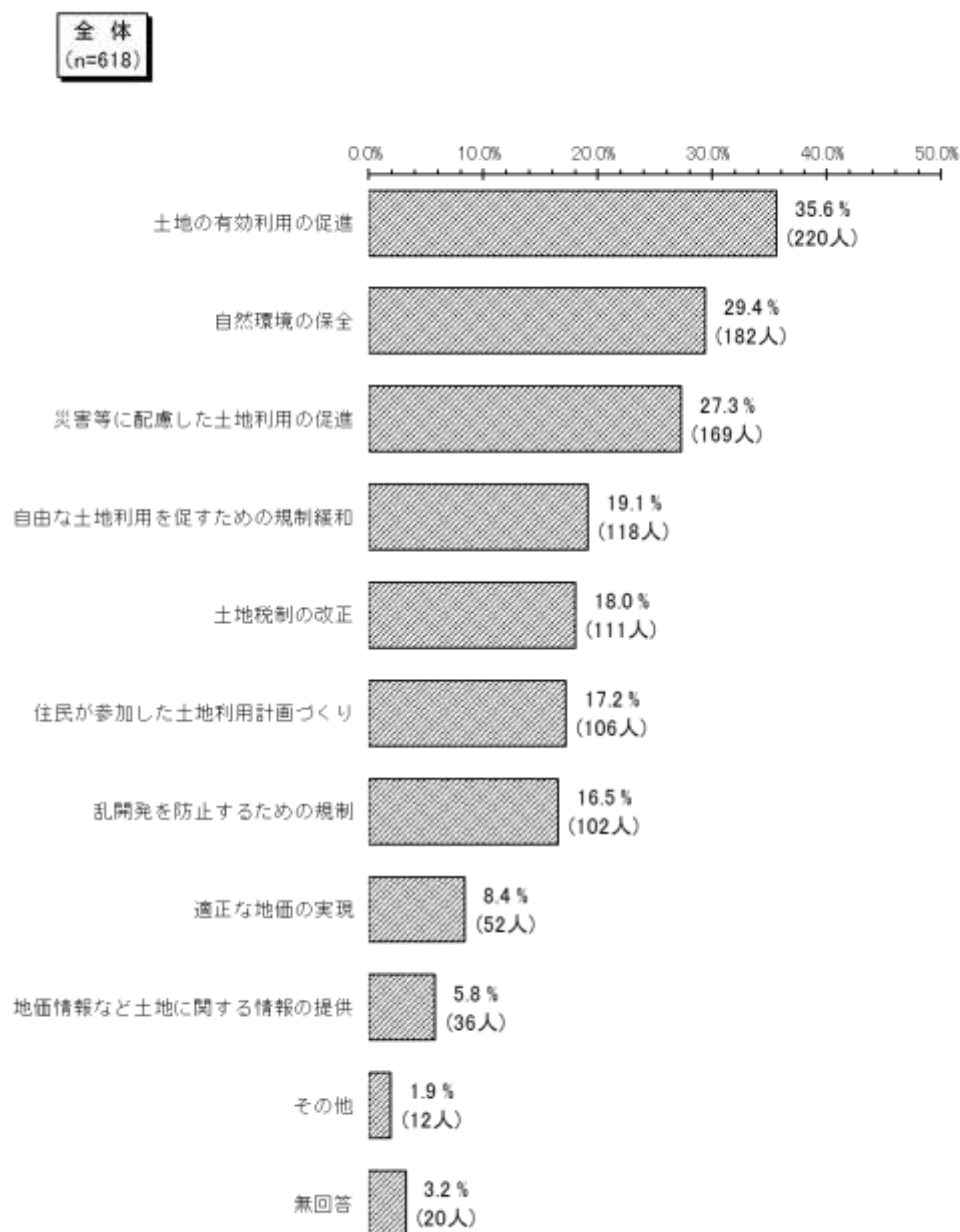
全体
(n=618)



土地利用にあたり重点をおくべきことについては、「増加している耕作放棄地の有効利用・再利用を図る。」(43.2%)が最も多く、4割台になっている。以下、「河川の整備やがけ崩れによる危険箇所の整備などの災害対策を進める。」(26.7%)、「安全で住みよい住宅地の供給を進める。」(26.5%)、「雇用の確保など地域経済を発展させるため、商工業用地の供給を進める。」(26.5%)、「中心市街地における低・未利用地の有効利用・高度利用を促進する。」(21.2%)、「レジャー・レクリエーション空間の充実に図る。」(20.7%)、「優れた景勝地や良好な自然環境を保護する。」(20.1%)が2割台で続いている。

(3) 重要と考える土地対策

問 12 行政は土地を有効に利用するための規制や制限等を行っていますが、あなたは、どのような土地対策が重要と考えますか。あてはまるもの2つまで○をつけてください。

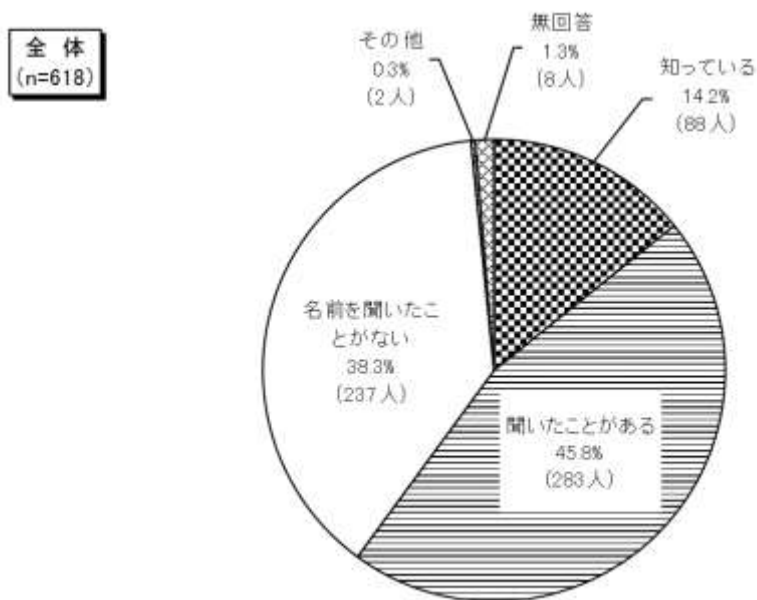


重要と考える土地対策は「土地の有効利用の促進」(35.6%)が最も多く3割台となっている。次いで、「自然環境の保全」(29.4%)、「災害等に配慮した土地利用の促進」(27.3%)が2割台となっている。以下、「自由な土地利用を促すための規制緩和」(19.1%)、「土地税制の改正」(18.0%)、「住民が参加した土地利用計画づくり」(17.2%)、「乱開発を防止するための規制」(16.5%)が1割台で続いている。

6. チャレンジふくしま県民運動について

(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

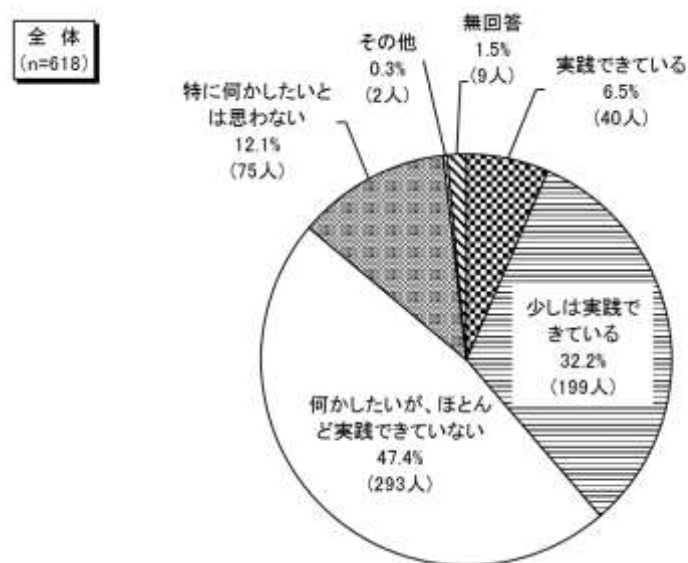
問 13 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「聞いたことがある」(45.8%)が4割台、「名前を聞いたことがない」(38.3%)が3割台、「知っている」(14.2%)が1割台となっている。

(2) 心身の健康づくりに対する実践状況

問 14 食、運動や文化活動など、最近の心身の健康づくりに関する実践状況について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



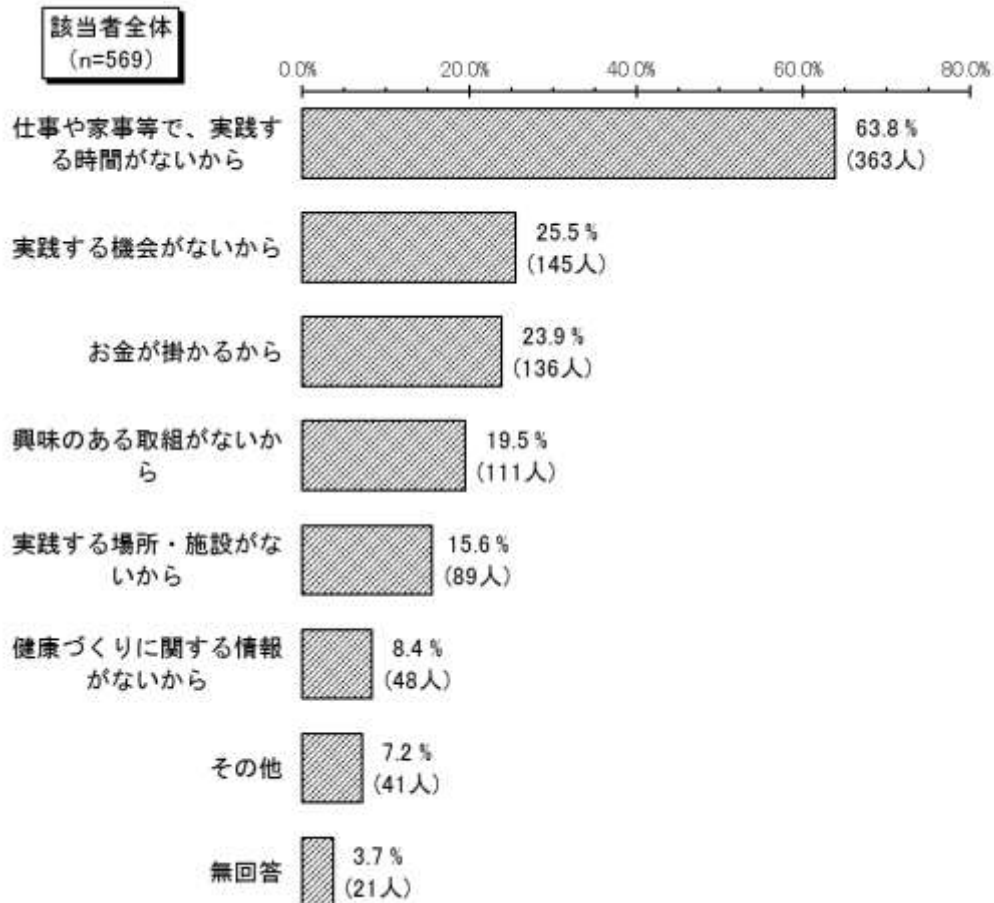
心身の健康づくりに対する実践状況については、「何かしたいが、ほとんど実践できていない」(47.4%)が最も多く、約5割となっている。以下、「少しは実践できている」(32.2%)、「特に何かしたいとは思わない」(12.1%)、「実践できている」(6.5%)となっている。

(3) 心身の健康づくりが実践できない理由

(問 14 で 2~5 に回答した方にお尋ねします。)

問 15 健康づくりが十分に実践できていない理由について選んでください。

あてはまるものにいくつでも○を付けてください。(複数回答可)



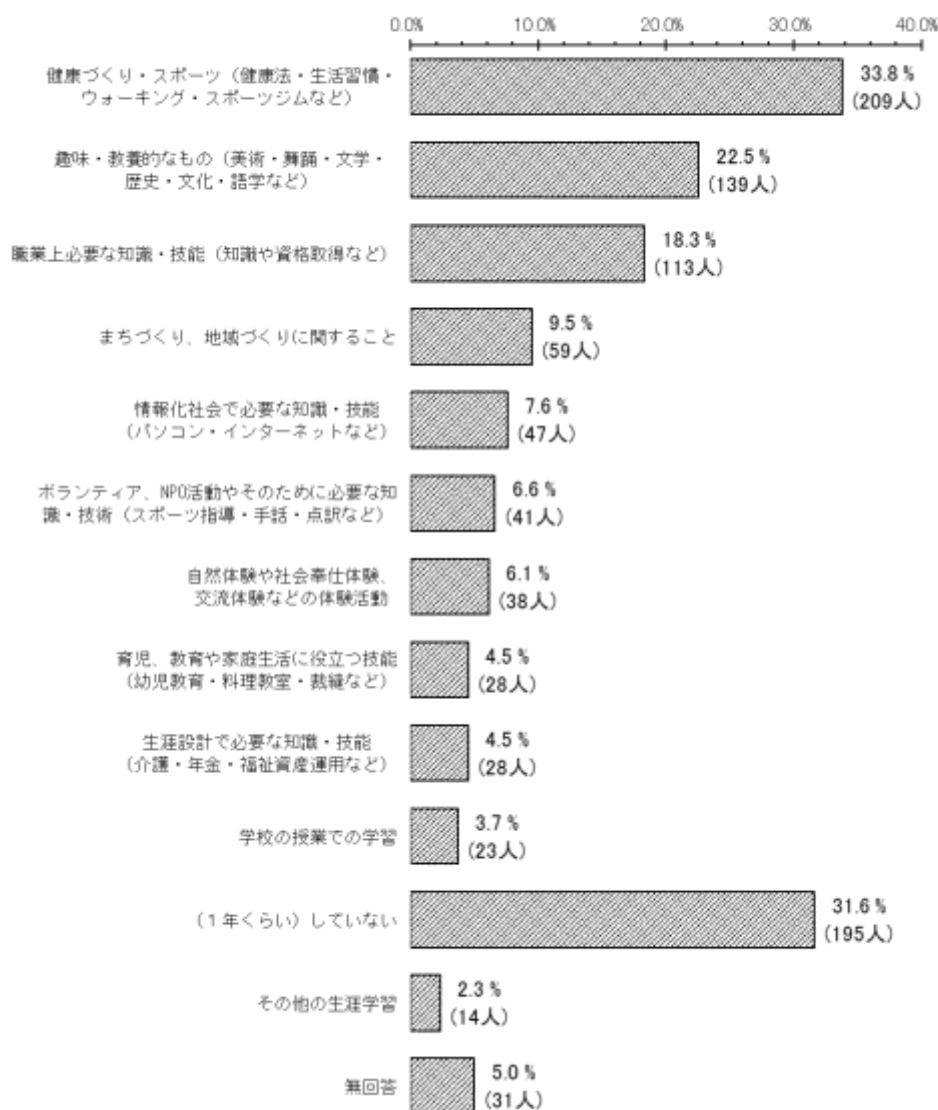
健康づくりが十分に実践できていない理由については、「仕事や家事等で、実践する時間がないから」(63.8%)が最も多く、6割台となっている。以下、「実践する機会がないから」(25.5%)、「お金が掛かるから」(23.9%)が2割台、「興味のある取組がないから」(19.5%)、「実践する場所・施設がないから」(15.6%)が1割台で続いている。

7. 生涯学習について

(1) 生涯学習の実施状況

問 16 あなたは、この1年の間にどのような「生涯学習」をしたことがありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)



この1年の間に実施した「生涯学習」については、「健康づくり・スポーツ (健康法・生活習慣・ウォーキング・スポーツジムなど)」(33.8%) が最も多く、3割台となっている。以下、「趣味・教養的なもの (美術・舞踊・文学・歴史・文化・語学など)」(22.5%) が2割台、「職業上必要な知識・技能 (知識や資格取得など)」(18.3%) が1割台となっている。

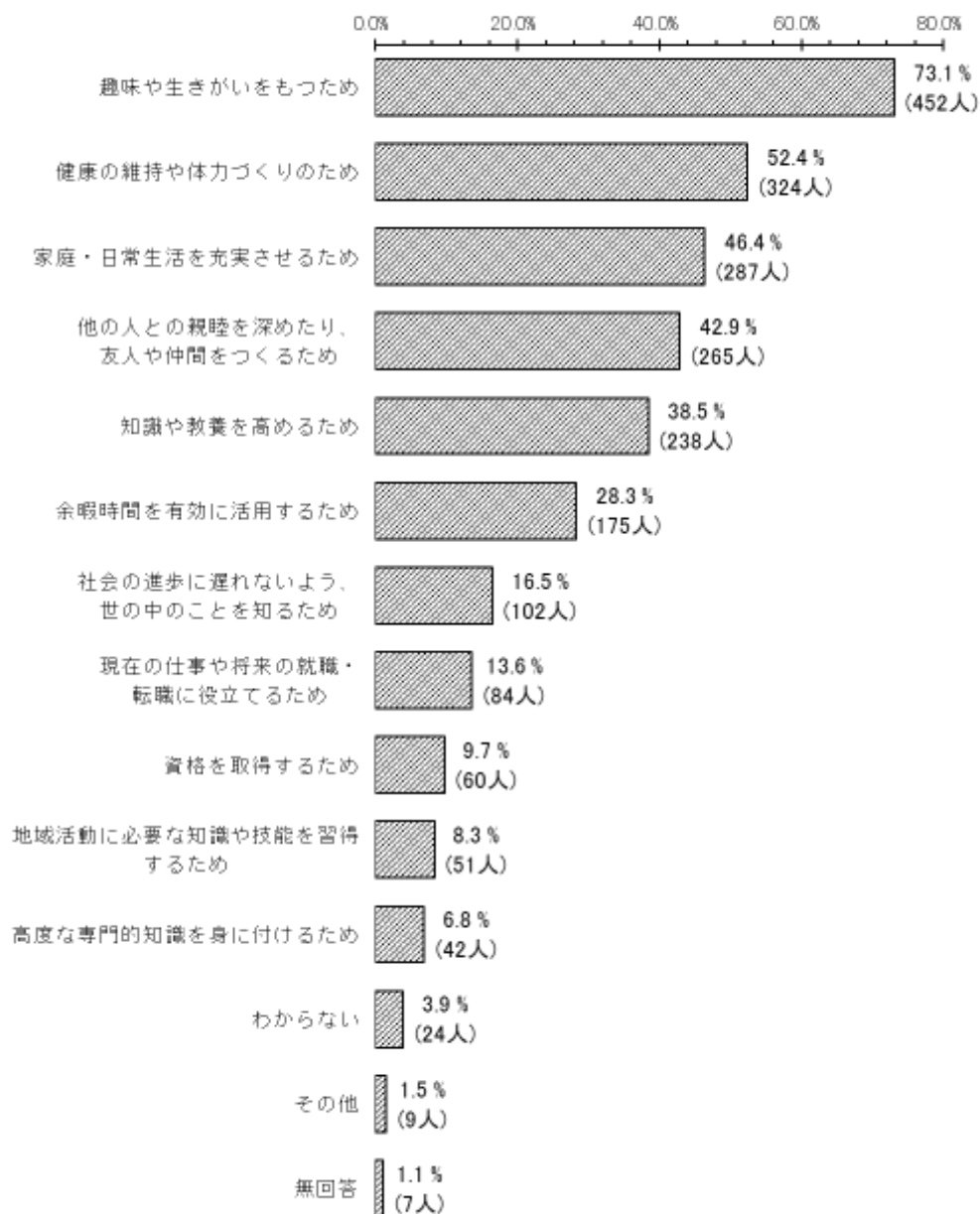
一方、「(1年くらい) していない」(31.6%) が3割台となっている。

(2) 生涯学習の目的・必要性

問17 あなたは、人生において、人々が「生涯学習」を行う目的・必要性は何だと思いますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)

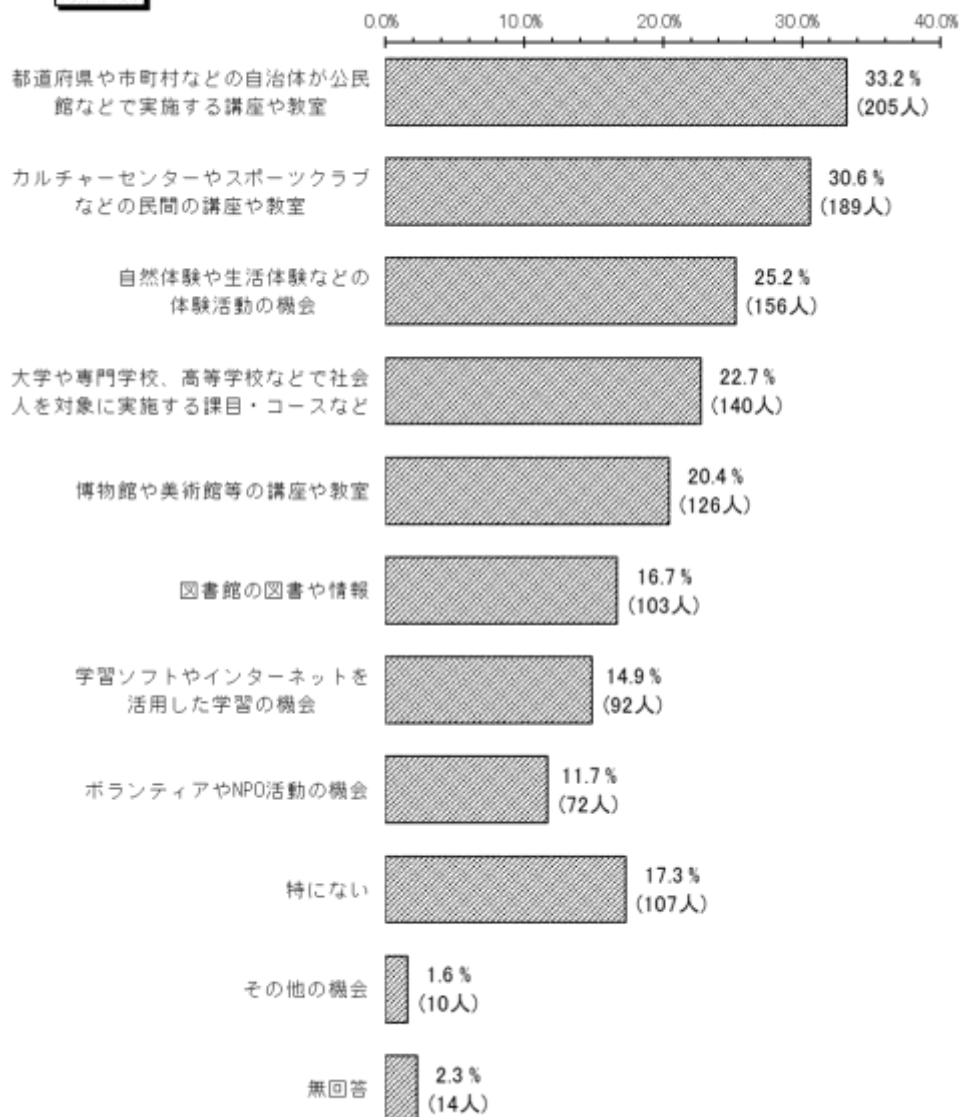


「生涯学習」を行う目的・必要性は、「趣味や生きがいをもつため」(73.1%)が最も多く、7割台となっている。次いで、「健康の維持や体力づくりのため」(52.4%)が5割台、以下、「家庭・日常生活を充実させるため」(46.4%)、「他の人との親睦を深めたり、友人や仲間をつくるため」(42.9%)が4割台、「知識や教養を高めるため」(38.5%)が3割台、「余暇時間を有効に活用するため」(28.3%)が2割台、「社会の進歩に遅れないよう、世の中のことを知るため」(16.5%)、「現在の仕事や将来の就職・転職に役立てるため」(13.6%)が1割台で続いている。

(3) 生涯学習を行う上で増えればよいと思う機会

問 18 あなたは、「生涯学習」を行う上で、どのような機会が増えればよいと思いますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=618)

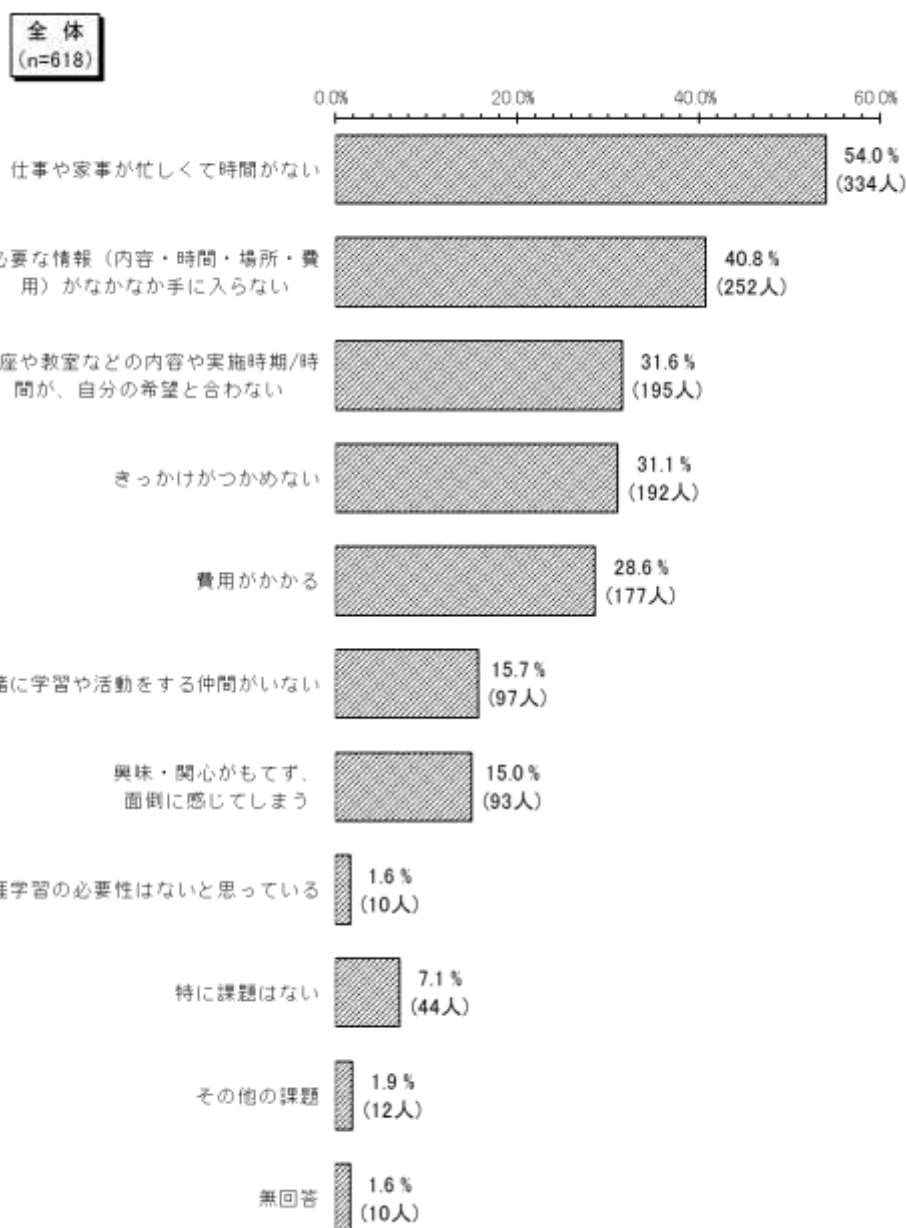


「生涯学習」を行う上で、増えればよいと思う機会は、「都道府県や市町村などの自治体が公民館などで実施する講座や教室」(33.2%)が最も多く、次いで、「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座や教室」(30.6%)が3割台となっている。以下、「自然体験や生活体験などの体験活動の機会」(25.2%)、「大学や専門学校、高等学校などで社会人を対象に実施する課目・コースなど」(22.7%)、「博物館や美術館等の講座や教室」(20.4%)が2割台が続いている。

一方、「特にない」(17.3%)が約2割弱となっている。

(4) 生涯学習を行う上での課題

問19 あなたが「生涯学習」を行おうとしたとき、どのような課題があると感じていますか。あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

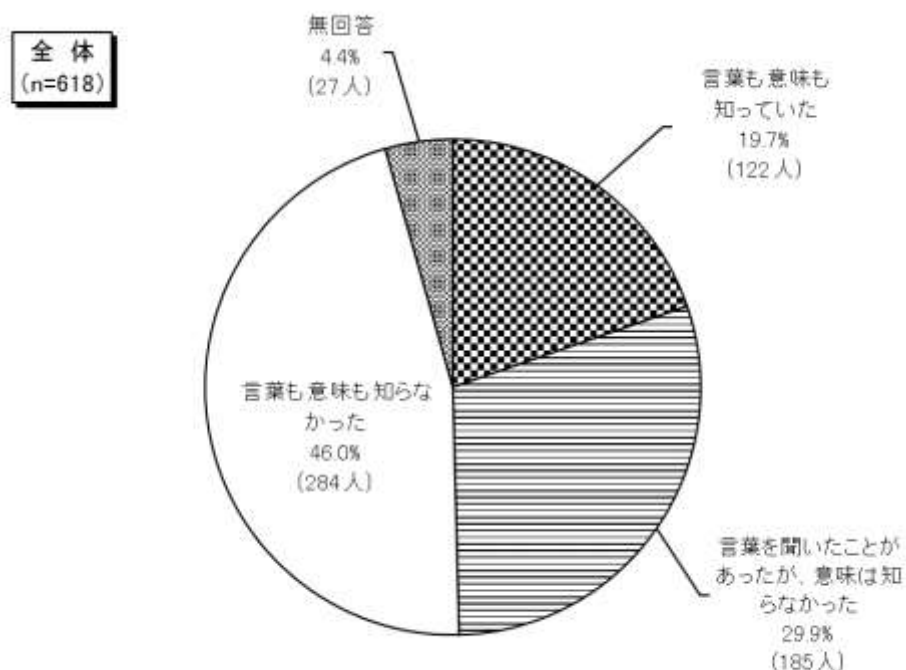


「生涯学習」を行う上での課題は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」(54.0%)が最も多く、5割台となっている。次いで、「必要な情報(内容・時間・場所・費用)がなかなか手に入らない」(40.8%)が約4割となっている。以下、「講座や教室などの内容や実施時期/時間が、自分の希望と合わない」(31.6%)、「きっかけがつかめない」(31.1%)が約3割、「費用がかかる」(28.6%)が2割台、「一緒に学習や活動をする仲間がいない」(15.7%)、「興味・関心ももてず、面倒に感じてしまう」(15.0%)が1割台で続いている。

8. 生物多様性について

(1) 言葉の認知状況

問 20 あなたは、「生物多様性」という言葉について知っていましたか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

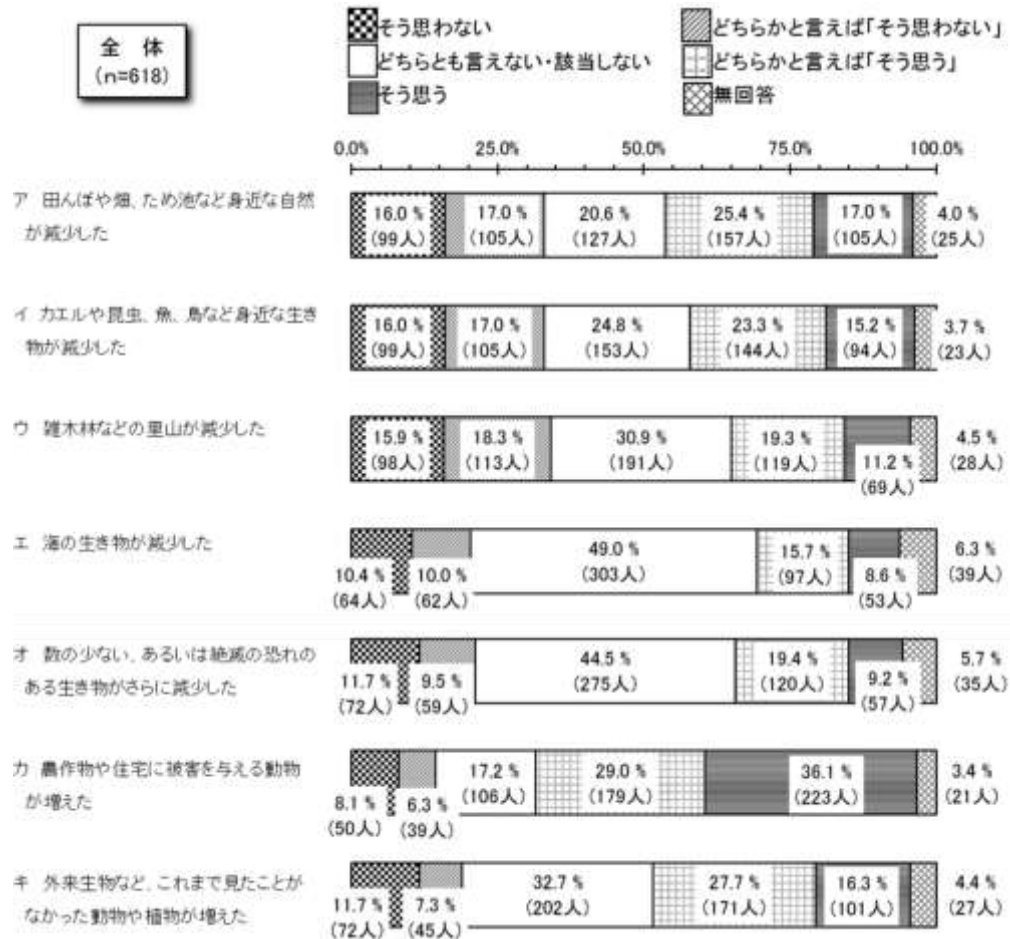


「生物多様性」という言葉の認知状況については、「言葉も意味も知らなかった」(46.0%)が4割強で、「言葉を聞いたことがあったが、意味は知らなかった」(29.9%)が約3割、「言葉も意味も知っていた」(19.7%)が約2割となっている。

(2) 震災前と比較した自然環境の現状

問 21 震災前と比較して、あなたの周りの自然環境はどのように変化しましたか。

ア～キについて、それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



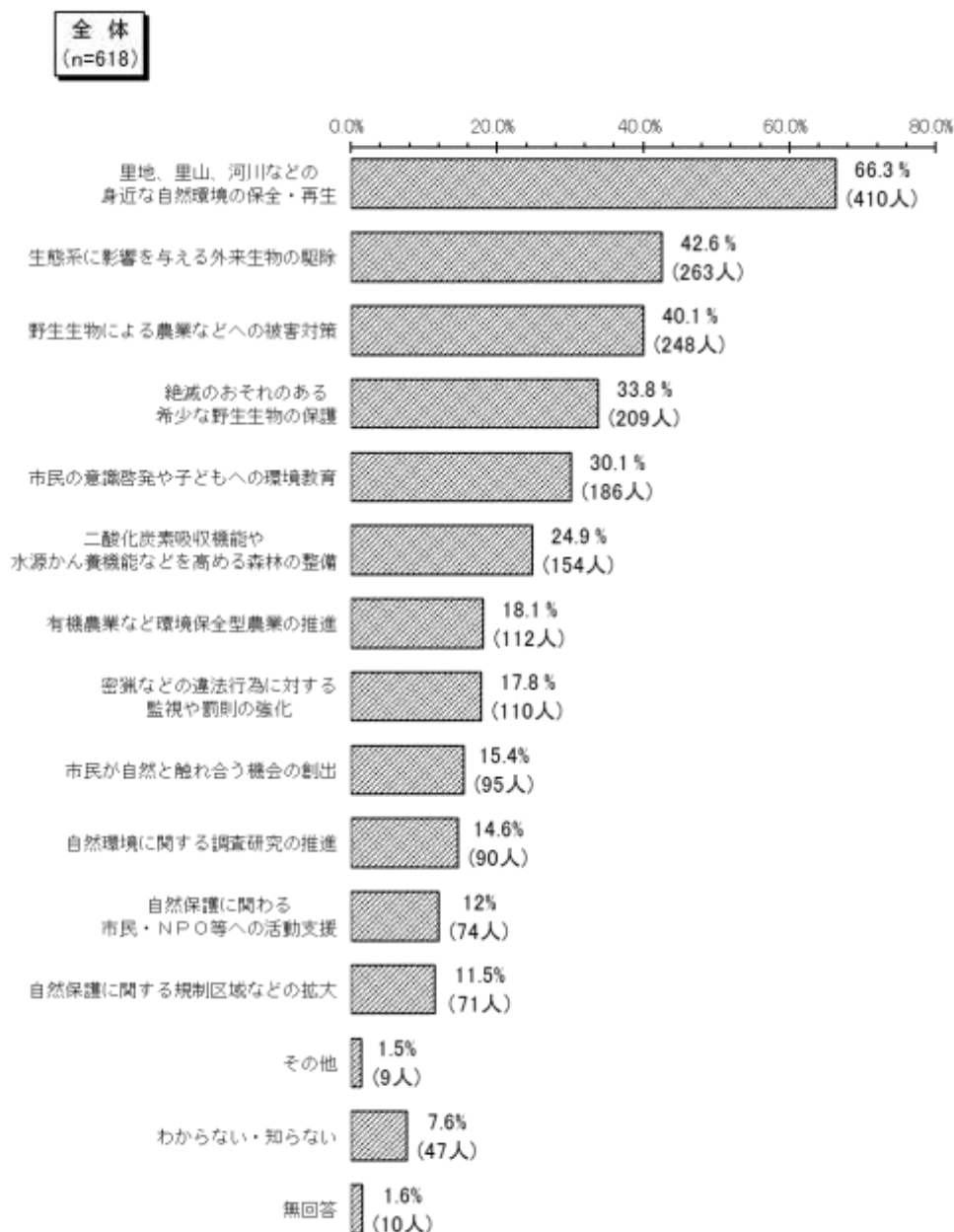
「そう思わない」と回答した人の割合をみると、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉と〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉（ともに16.0%）の割合が最も高く、以下、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉（15.9%）、〈オ 数の少ない、あるいは絶滅の恐れのある生き物がさらに減少した〉と〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉（ともに11.7%）、〈エ 海の生き物が減少した〉（10.4%）が1割台で続いている。

「そう思わない」と「どちらかと言えば“そう思わない”」を合わせた『そう思わない』計の割合をみると、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉（34.1%）が最も高く、次いで、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉と〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉（ともに33.0%）が3割台となっている。以下、〈オ 数の少ない、あるいは絶滅の恐れのある生き物がさらに減少した〉（21.2%）、〈エ 海の生き物が減少した〉（20.4%）が2割台、〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉（18.9%）、〈カ 農作物や住宅に被害を与える動物が増えた〉（14.4%）が1割台で続いている。

一方、「そう思う」と「どちらかと言えば“そう思う”」を合わせた『そう思う』計の割合は、〈カ 農作物や住宅に被害を与える動物が増えた〉（65.0%）が最も高く、6割台となっている。以下、〈キ 外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた〉（44.0%）、〈ア 田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した〉（42.4%）が4割台、〈イ カエルや昆虫、魚、鳥など身近な生き物が減少した〉（38.5%）、〈ウ 雑木林などの里山が減少した〉（30.4%）が3割台、〈オ 数の少ない、あるいは絶滅の恐れのある生き物がさらに減少した〉（28.6%）、〈エ 海の生き物が減少した〉（24.3%）が2割台で続いている。

(3) 生物多様性の保全や生態系サービスを得るために重要なこと

問 22 生物多様性の保全や、それによる生態系からの豊かな恵み（生態系サービス）を得るために最も重要だと思うことはどれですか。
 あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。（複数回答可）

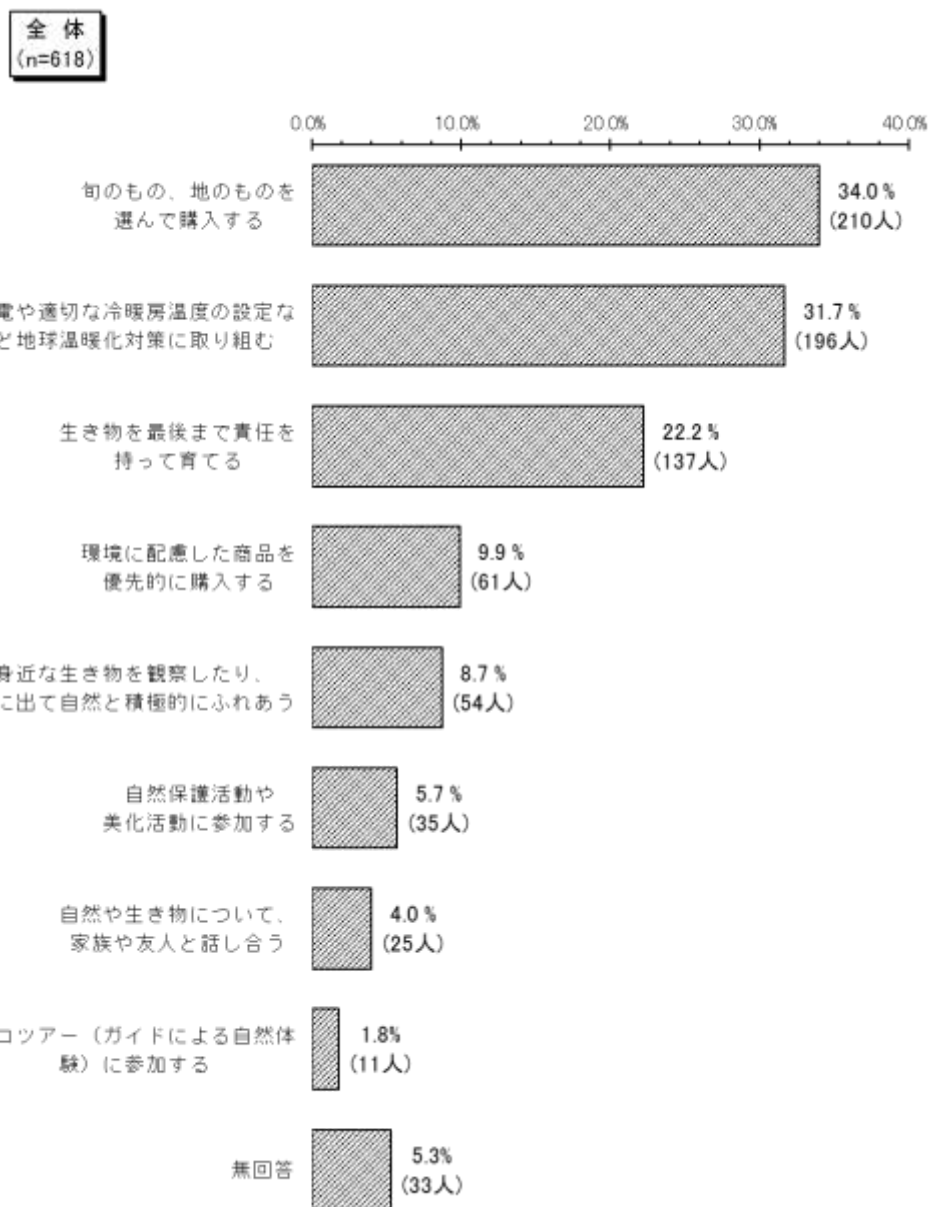


生物多様性の保全や生態系サービスを得るために重要と思うことは、「里地、里山、河川などの身近な自然環境の保全・再生」（66.3%）の割合が最も高く6割台となっている。以下、「生態系に影響を与える外来生物の駆除」（42.6%）、「野生生物による農業などへの被害対策」（40.1%）が4割台、「絶滅のおそれのある希少な野生生物の保護」（33.8%）、「市民の意識啓発や子どもへの環境教育」（30.1%）が3割台、「二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能などを高める森林の整備」（24.9%）が2割台となっている。

(4) 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行いたいこと

問 23 あなたは、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

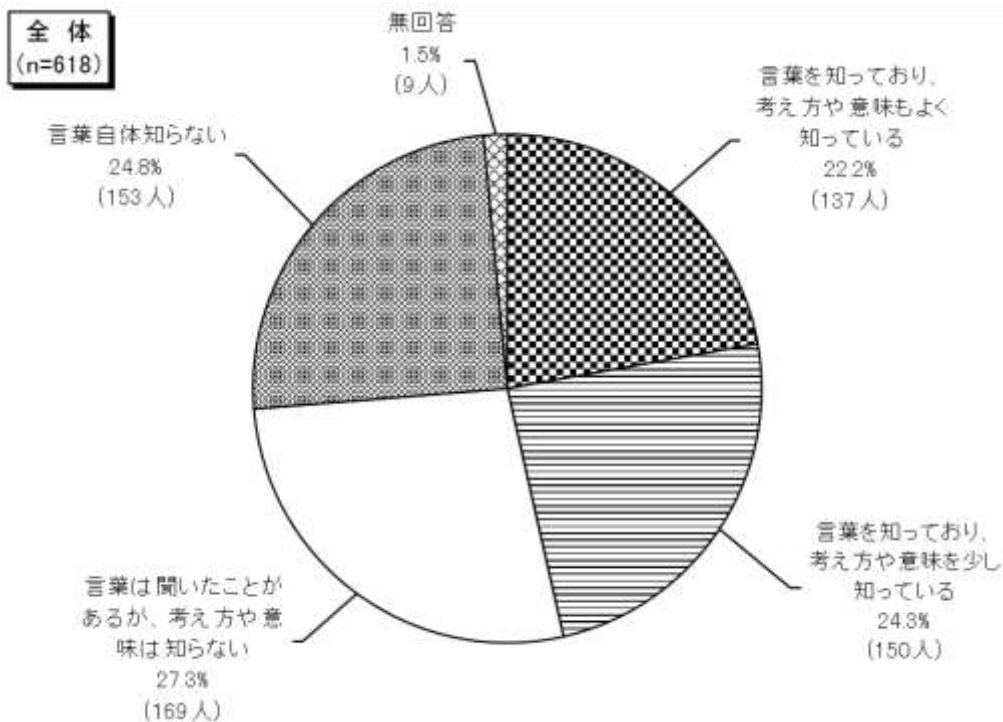


生物多様性に配慮したライフスタイルとして行いたいことは、「旬のもの、地のものを選んで購入する」(34.0%)が最も多く、次いで、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」(31.7%)が3割台となっている。以下、「生き物を最後まで責任を持って育てる」(22.2%)が約2割、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」(9.9%)、「身近な生き物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」(8.7%)が1割弱で続いている。

9. ユニバーサルデザインについて

(1) 言葉の認知状況

問 24 あなたは、ユニバーサルデザインという言葉について知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

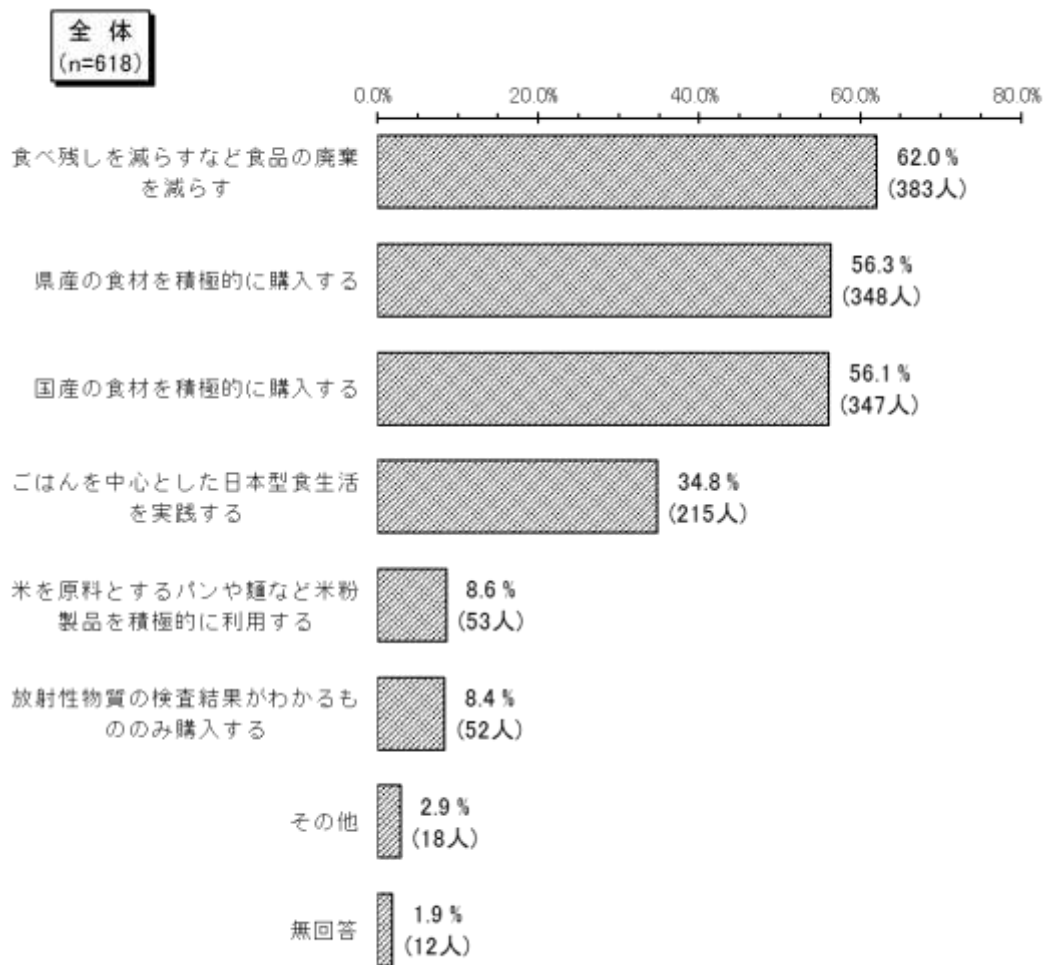


ユニバーサルデザインという言葉について、「言葉は聞いたことがあるが、考え方や意味は知らない」(27.3%)の割合が最も多く、以下、「言葉自体知らない」(24.8%)、「言葉を知っており、考え方や意味を少し知っている」(24.3%)、「言葉を知っており、考え方や意味もよく知っている」(22.2%)となっている。

10. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと

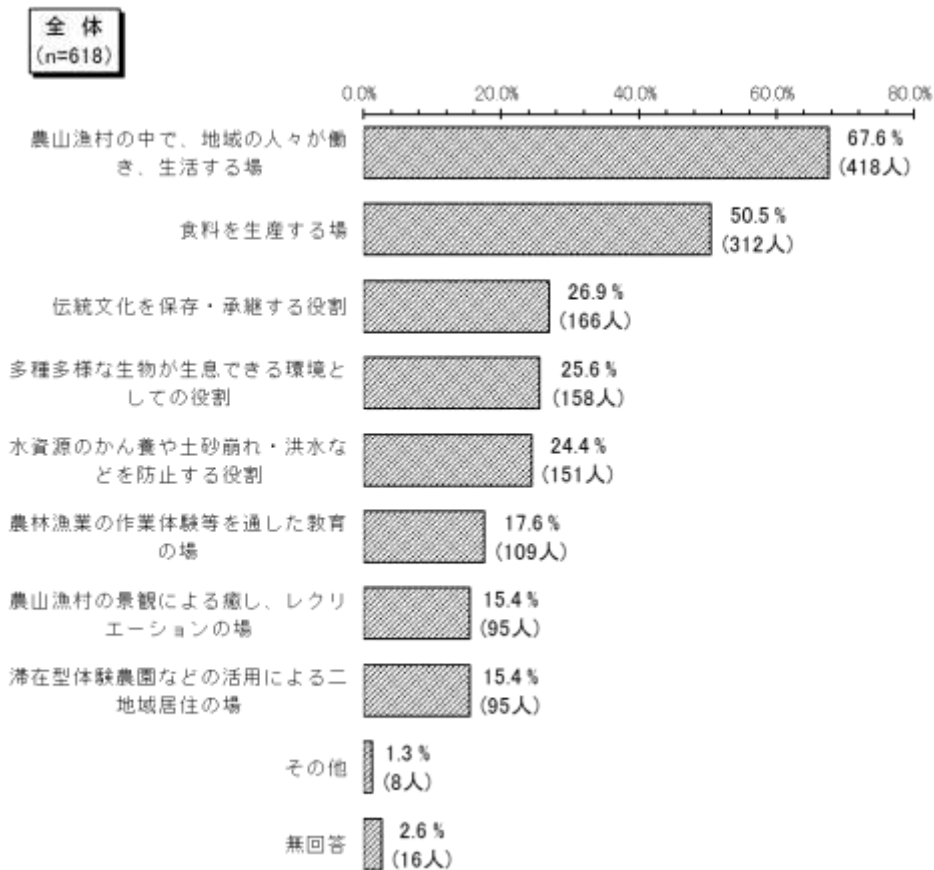
問 25 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。
あてはまるものはいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



震災後、農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいことは、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(62.0%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「県産の食材を積極的に購入する」(56.3%)と「国産の食材を積極的に購入する」(56.1%)が5割台、「ごはんを中心とした日本型食生活を実践する」(34.8%)が3割台となっている。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問 26 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
 あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)



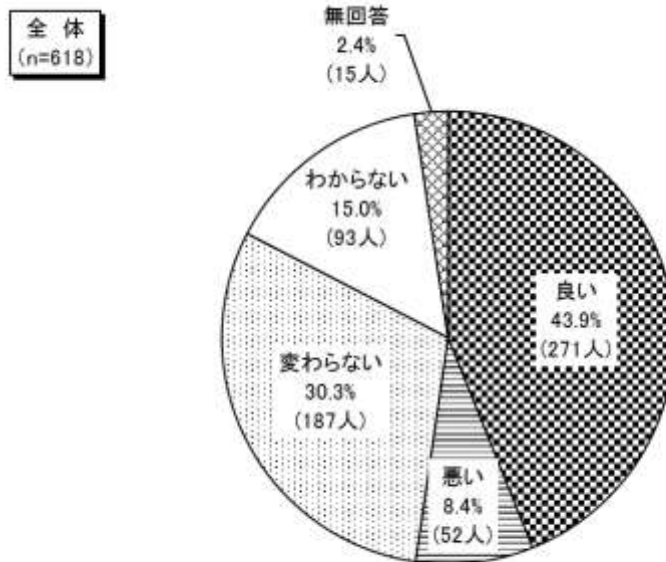
農山漁村の役割として期待することは、「農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(67.6%)が最も多く、6割を超えている。次いで、「食料を生産する場」(50.5%)が約5割となっている。以下、「伝統文化を保存・承継する役割」(26.9%)、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(25.6%)、「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(24.4%)が2割台、「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(17.6%)、「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(15.4%)、「滞在型体験農園などの活用による二地域居住の場」(15.4%)が1割台が続いている。

1 1. 地域社会の安全・安心（治安）について

（1）現在の治安状況

問 27 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地の治安状況が「良い」（43.9%）と思う人は4割台となっている。

一方、治安状況が「悪い」（8.4%）と思う人は1割未満となっている。

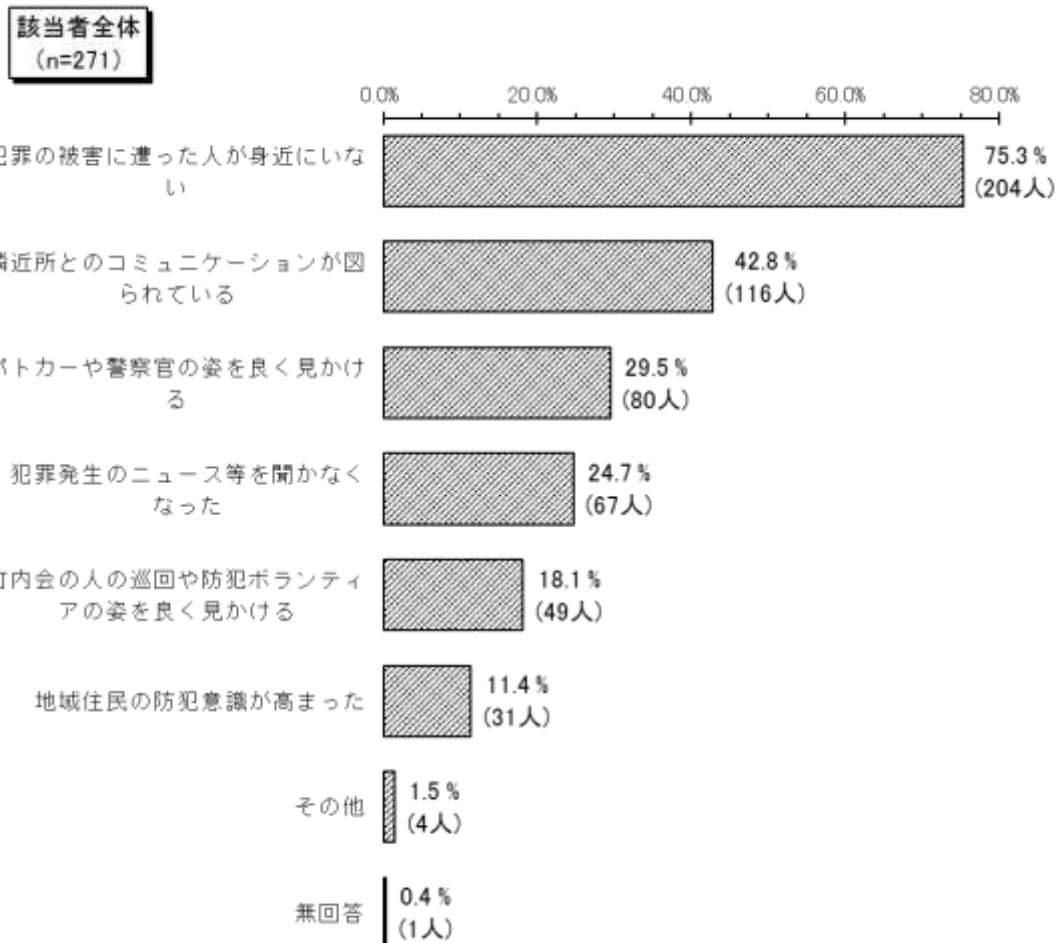
また、「変わらない」（30.3%）が約3割となっている。

(2) 治安状況が良いと思う理由

(問 27 で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 27-1 良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



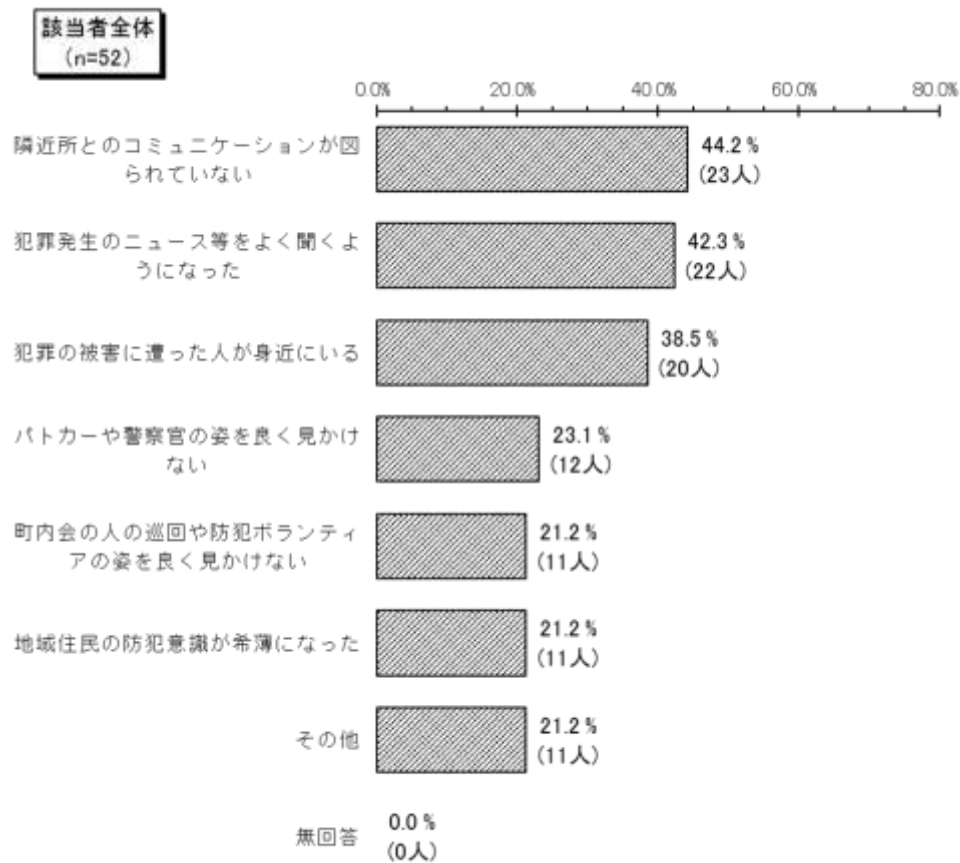
治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(75.3%)が7割台と最も多く、次いで、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(42.8%)が4割台となっている。以下、「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(29.5%)が約3割、「犯罪発生のニュース等を聞かなくなった」(24.7%)が2割台、「町内会の人々の巡回や防犯ボランティアの姿を良く見かける」(18.1%)、「地域住民の防犯意識が高まった」(11.4%)が1割台で続いている。

(3) 治安状況が悪いと思う理由

(問 27 で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問 27-2 悪いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

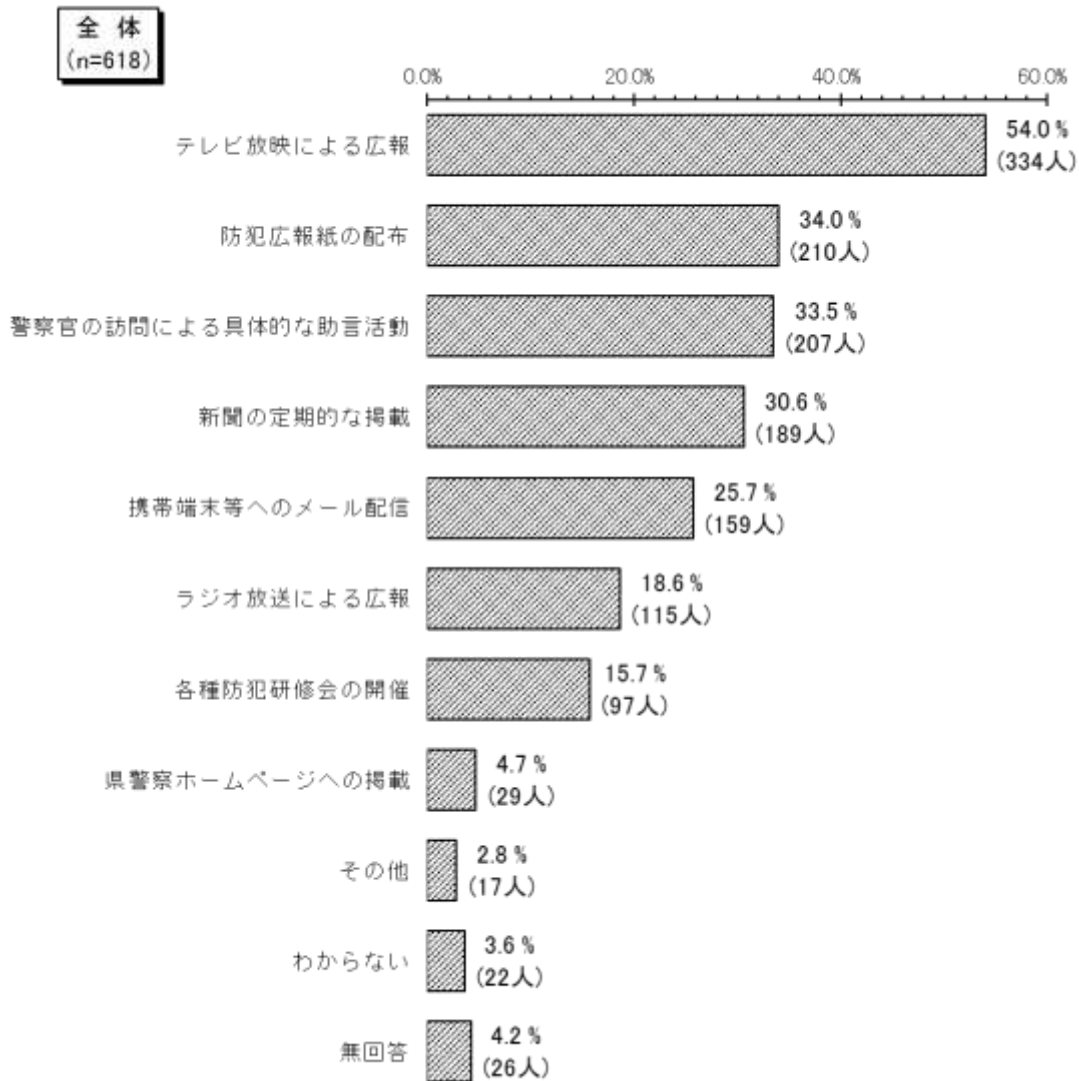


治安状況が悪いと思う理由は、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(44.2%)が最も多く、次いで、「犯罪発生のニュース等をよく聞くようになった」(42.3%)が4割台となっている。以下、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」(38.5%)が3割台、「パトカーや警察官の姿を良く見かけない」(23.1%)、「町内会の人や巡回や防犯ボランティアの姿を良く見かけない」(21.2%)、「地域住民の防犯意識が希薄になった」(21.2%)が2割台で続いている。

(4) 犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供手段

問 28 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、どのような形で提供されるのがよいと思いますか。

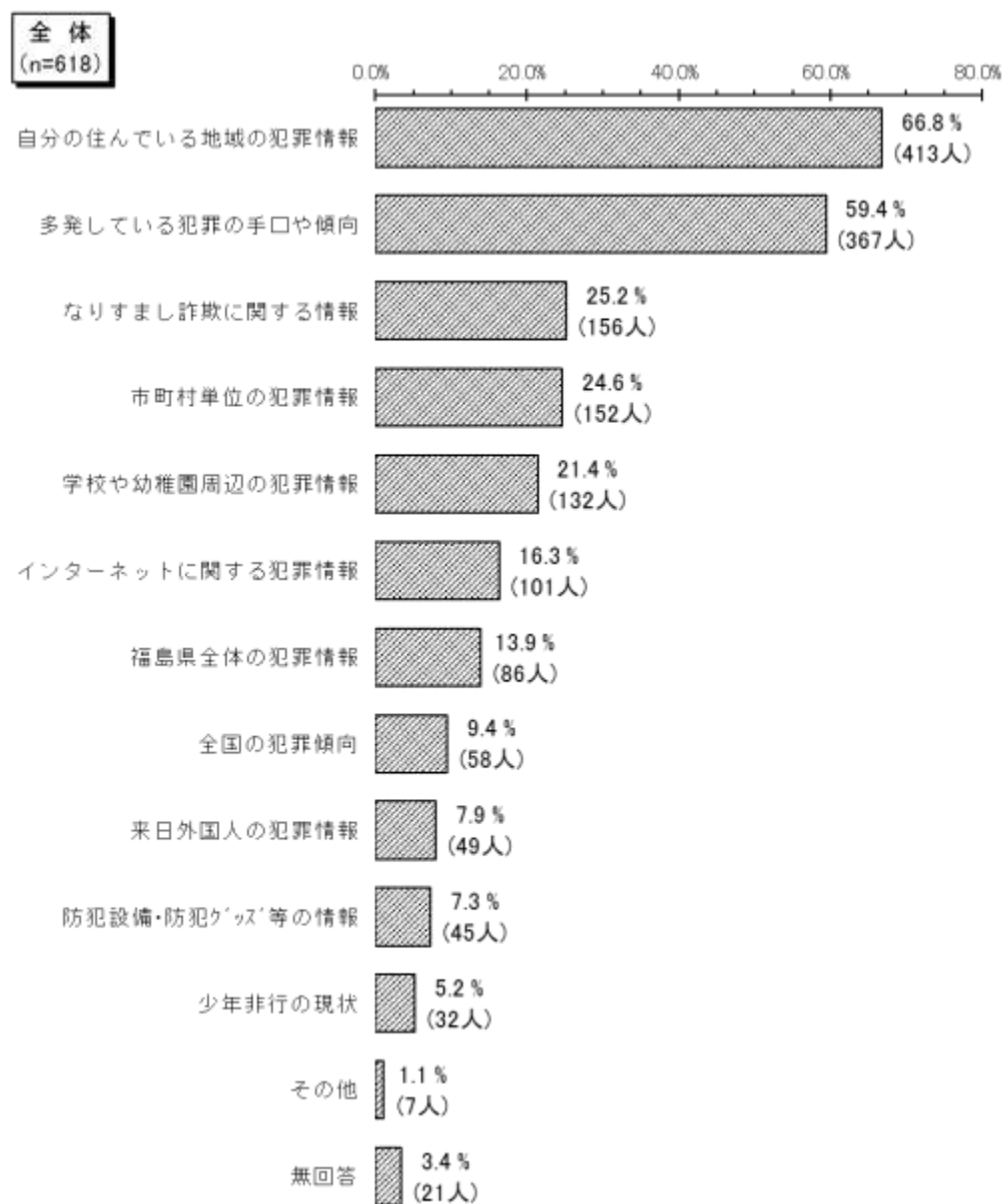
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



犯罪の発生状況や防止方法等の情報の提供方法については、「テレビ放映による広報」(54.0%)が5割台と最も多くなっている。以下、「防犯広報紙の配布」(34.0%)、「警察官の訪問による具体的な助言活動」(33.5%)、「新聞の定期的な掲載」(30.6%)が3割台、「携帯端末等へのメール配信」(25.7%)が2割台、「ラジオ放送による広報」(18.6%)、「各種防犯研修会の開催」(15.7%)が1割台で続いている。

(5) 犯罪に関して知りたい情報

問 29 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

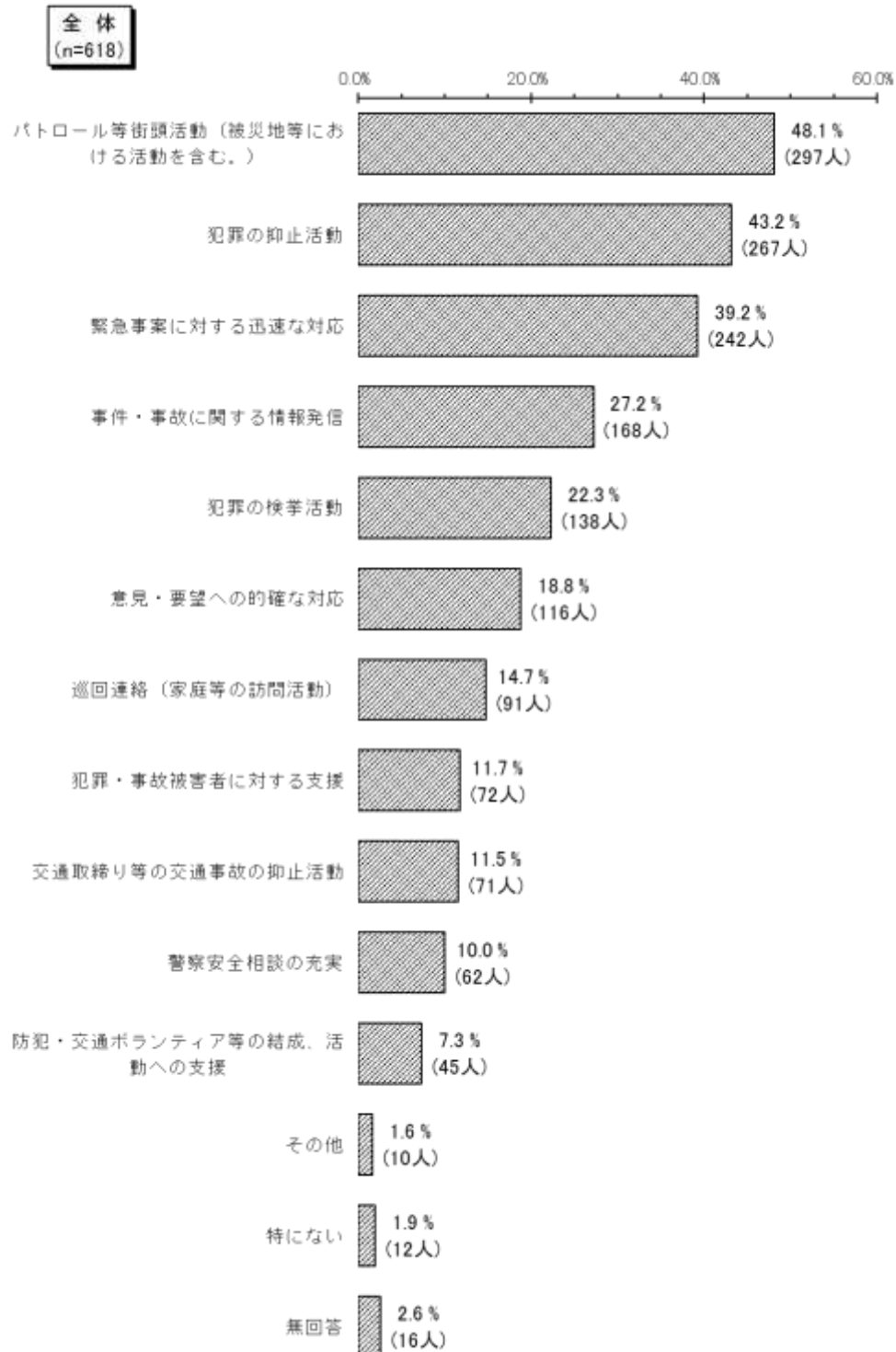


犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(66.8%)が最も多く、6割台となっている。次いで、「多発している犯罪の手口や傾向」(59.4%)が約6割となっている。以下、「なりすまし詐欺に関する情報」(25.2%)、「市町村単位の犯罪情報」(24.6%)、「学校や幼稚園周辺の犯罪情報」(21.4%)が2割台、「インターネットに関する犯罪情報」(16.3%)、「福島県全体の犯罪情報」(13.9%)が1割台で続いている。

(6) 警察に強化してほしい活動

問 30 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



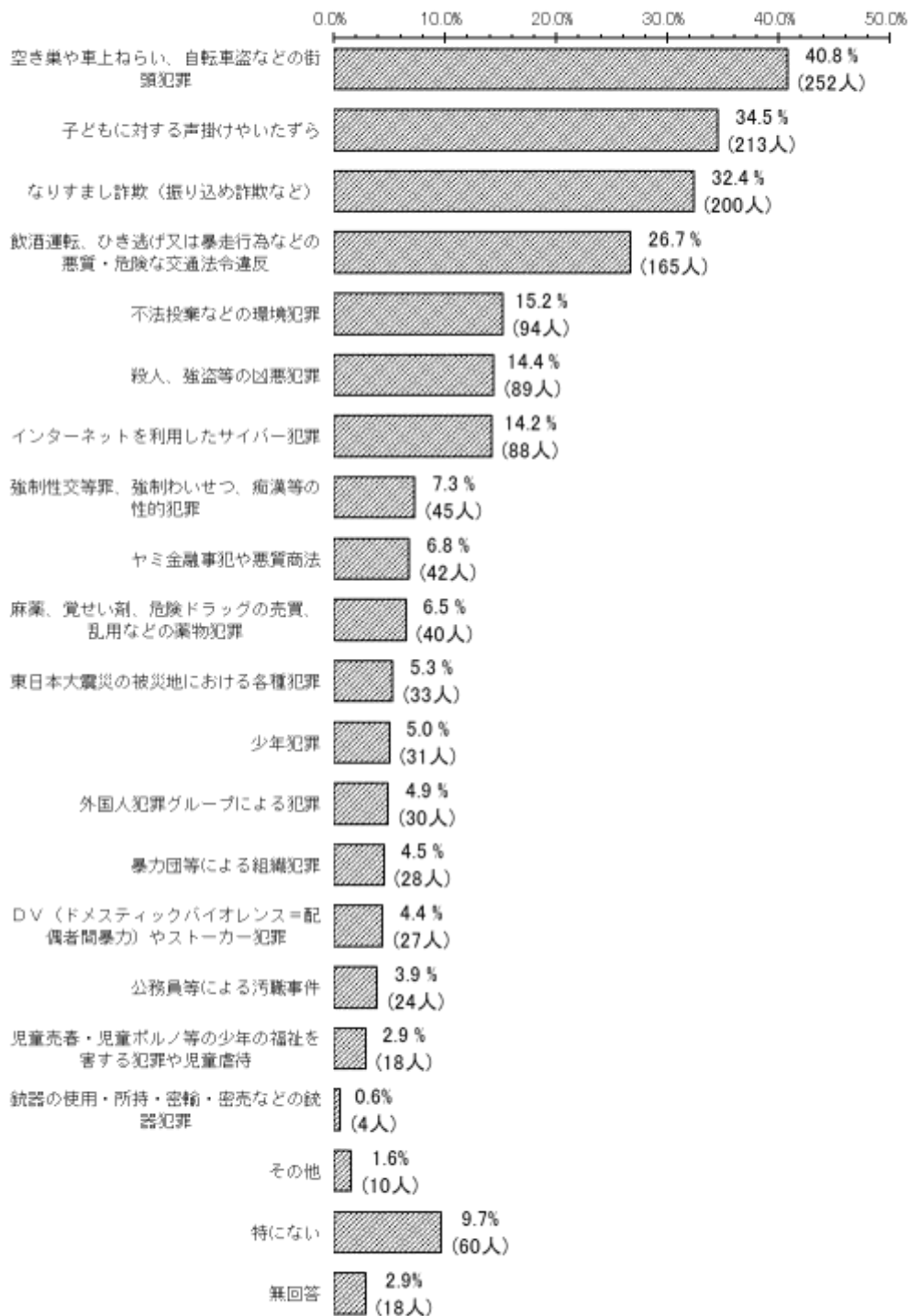
警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動（被災地等における活動を含む。）」（48.1%）が最も多く、次いで、「犯罪の抑止活動」（43.2%）が4割台となっている。以下、「緊急事案に対する迅速な対応」（39.2%）が3割台、「事件・事故に関する情報発信」（27.2%）、「犯罪の検挙活動」（22.3%）が2割台、「意見・要望への的確な対応」（18.8%）、「巡回連絡（家庭等の訪問活動）」（14.7%）、「犯罪・事故被害者に対する支援」（11.7%）、「交通取締り等の交通事故の抑止活動」（11.5%）、「警察安全相談の充実」（10.0%）が1割台で続いている。

(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

問 31 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=618)

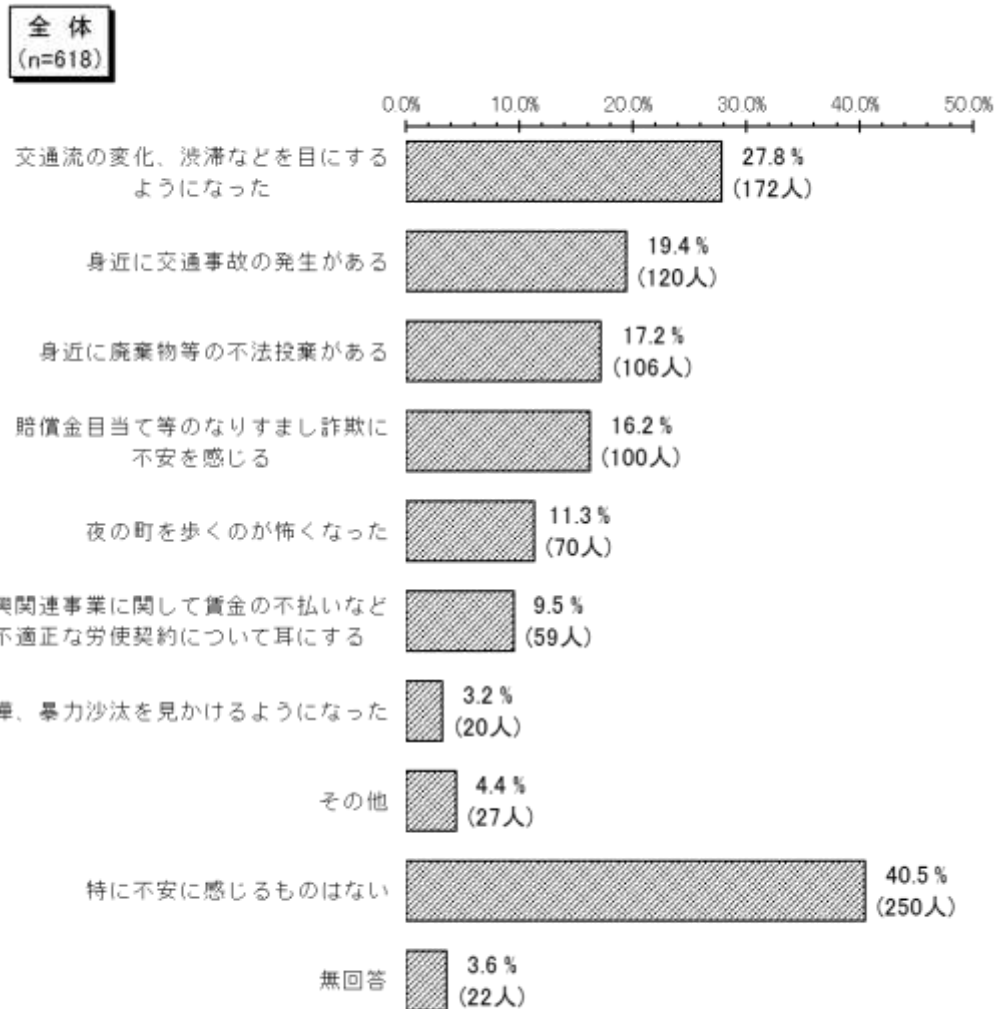


今後重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣や車上ねらい、自転車盗などの街頭犯罪」(40.8%)が最も多く約4割、次いで、「子どもに対する声掛けやいたずら」(34.5%)、「なりすまし詐欺(振り込め詐欺など)」(32.4%)が3割台となっている。以下、「飲酒運転、ひき逃げ又は暴走行為などの悪質・危険な交通法令違反」(26.7%)が2割台、「不法投棄などの環境犯罪」(15.2%)、「殺人、強盗等の凶悪犯罪」(14.4%)、「インターネットを利用したサイバー犯罪」(14.2%)が1割台で続いている。

(8) 身近に感じる不安

問 32 震災から8年が経過しましたが、復興に伴い治安面で身近に感じる不安は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



復興に伴い治安面で身近に感じる不安は、「交通流の変化、渋滞などを目にするようになった」(27.8%)が最も多く3割弱となっている。以下、「身近に交通事故の発生がある」(19.4%)、「身近に廃棄物等の不法投棄がある」(17.2%)、「賠償金目当て等のならすまし詐欺に不安を感じる」(16.2%)、「夜の町を歩くのが怖くなった」(11.3%)が1割台となっている。

なお、「特に不安を感じるものはない」(40.5%)が、約4割となっている。

Ⅲ 調査票様式

IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧

平成30年度（11項目27問） 標本数1,300 回収率49.1%

- (1) 福島イノベーション・コースト構想について
- (2) 復興に関する情報発信について
- (3) チャレンジふくしま県民運動について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 水に関する意識について
- (7) 水道水の放射線物質検査について
- (8) 公共交通について
- (9) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (10) 安全で安心な県づくりについて
- (11) 県総合計画について

平成29年度（9項目26問） 標本数1,300 回収率54.7%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 福島イノベーション・コースト構想について
- (3) 買い物環境について
- (4) 水に関する意識について
- (5) 農林水産業について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成28年度（7項目26問） 標本数1,300 回収率54.3%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 農林水産業について
- (3) 生物多様性について
- (4) 高校教育について
- (5) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (6) 安全で安心な県づくりについて
- (7) 県総合計画について

平成27年度（8項目28問） 標本数1,300 回収率54.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 青少年の健全育成について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について

- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成26年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 57.0%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 食育について
- (4) 農林水産業について
- (5) 廃棄物対策について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成25年度（8項目24問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数 1,300 回収率 60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数 1,300 回収率 63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について

- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数1,300 回収率60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数1,300 回収率65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数1,300 回収率64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数1,300 回収率58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について

- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数1,300 回収率59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地球温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について
- (6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

令和元年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

福島県 総務部 県民広聴室

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話 (024) 521-7013